

沼津工業高等専門学校

運営諮問會議報告書

(平成 27 年度)

—平成 26 年度年度計画自己点検評価の検証／平成 27 年度年度計画—

平成 28 年 3 月

沼津工業高等専門学校

運 営 諮 問 会 議

目 次

I.	はじめに	1
II.	沼津工業高等専門学校運営諮問会議規則	3
III.	沼津工業高等専門学校運営諮問会議委員名簿	7
IV.	概要説明	
	1. 沼津工業高等専門学校概要(Power Point 資料)	11
V.	審議事項	
	1. 平成 26 年度年度計画 自己点検評価	
	1)平成 26 年度 年度計画 自己点検評価表	43
	2)平成 26 年度 年度計画 評価シート意見対応表	53
	2. 平成 27 年度年度計画について	
	1)沼津工業高等専門学校 平成 27 年度 年度計画	65
	2)平成 27 年度 年度計画意見表	75
VI.	平成 27 年度 沼津工業高等専門学校 運営諮問会議議事要旨	83
	(平成 27 年 7 月 31 日(金) 本校3F 大会議室)	

沼津工業高等専門学校運営諮問會議規則

沼津工業高等専門学校運営諮問会議規則

(設置)

第1条 沼津工業高等専門学校（以下「本校」という。）に本校以外の有識者による沼津工業高等専門学校運営諮問会議（以下「諮問会議」という。）を置く。

(目的)

第2条 諮問会議は、本校の学校運営全般について、指導及び助言を行い、本校の健全な学校運営を支援することを目的とする。

(任務)

第3条 諮問会議は、次の各号に掲げる事項について、校長の諮問に応じて審議し、及び校長に対して助言を行うものとする。

- (1) 本校の中期目標、中期計画及び年度計画に関する重要事項
- (2) 本校の教育及び研究活動に関する重要事項
- (3) その他、本校の運営に関する重要事項

(組織)

第4条 諮問会議の委員は、人格識見が高く、かつ、本校の振興発展に関心と理解のある学外有識者で、次の各号に掲げる者のうちから、校長が委嘱する委員をもって組織する。

- (1) 大学等高等教育機関の関係者
- (2) 産業・経済界の関係者
- (3) 本校が所在する地域の関係者
- (4) 本校の支援団体等の関係者

2 諮問会議は、必要と認めるときは、委員以外の者の出席を求め意見を聞くことができる。

(議長)

第5条 諮問会議に議長を置き、その議長は委員の互選をもって充てる。

- 2 議長は、諮問会議の会務を総括する。
- 3 議長に支障があるときは、あらかじめ議長が指名した委員が職務を代行する。

(任期)

第6条 委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

- 2 前項の委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(事務)

第7条 諮問会議の事務は、総務課において処理する。

(雑則)

第8条 この規則に定めるもののほか、諮問会議の運営に関し必要な事項は、諮問会議が別に定めるものとする。

附 則

1. この規則は、平成21年4月1日から施行する。
2. この規則の施行後、最初に委嘱された委員の任期は、第6条第1項の規定に係わらず平成23年3月31日までとする。

沼津工業高等専門学校 運営諮問会議委員

平成27年度 沼津高専運営諮詢会議委員

氏名	現職	規則根拠
とうごう けいいちろう 東郷敬一郎	静岡大学 理事 (企画戦略・情報担当)	規則第4条第1項第1号委員 (大学等高等教育機関の関係者)
さわだ かずあき 澤田 和明	豊橋技術科学大学 (高専連携担当)	規則第4条第1項第1号委員 (大学等高等教育機関の関係者)
あべ よしなり 阿部 欣成	富士通株式会社 沼津工場長	規則第4条第1項第2号委員 (産業・経済界の関係者)
きしもと よしひろ 岸本 吉弘	東芝機械株式会社 専務執行役員 沼津工場長	規則第4条第1項第2号委員 (産業・経済界の関係者)
せい かつひこ 清 勝彦	日医工ファーマテック 株式会社静岡工場 代表取締役	規則第4条第1項第2号委員 (産業・経済界の関係者)
うえまつ しょういち 植松 彰一	矢崎総業技術研究所 研究企画部	規則第4条第1項第2号委員 (産業・経済界の関係者)
くどう たつろう 工藤 達朗	沼津市教育委員会 教育長	規則第4条第1項第3号委員 (本校が所在する地域の関係者)
やまだ けん 山田 健	沼津市立門池中学校長 (地区中学校長会会長)	規則第4条第1項第3号委員 (本校が所在する地域の関係者)
きど みのる 木戸 実	沼津工業高等専門学校 同窓会長	規則第4条第1項第4号委員 (本校の支援団体等の関係者)

※ 任期:平成27年4月1日～平成29年3月31日

沼津工業高等専門学校概要

沼津高専の概要



平成27年7月31日(金)

1

沼津高専の沿革

- ・昭和37年(1962年)
機械工学科2学級、電気工学科1学級が設置
- ・昭和41年(1966年)
工業化学科1学級が設置
- ・昭和51年(1976年)
第4学年への編入学を認めた、情報処理教育センターが設置
- ・昭和61年(1986年)
電子制御工学科1学級が設置
- ・平成元年(1989年)
工業化学科が物質工学科に改組
- ・平成4年(1992年)
**機械工学科(2学級)が機械工学科(1学級)と
制御情報工学科(1学級)に改組**
- ・平成8年(1996年)
専攻科(3専攻)が設置
- ・平成11年(1999年)
電気工学科が電気電子工学科に改組
- ・平成16年(2004年)
地域共同テクノセンターが設置
独立行政法人国立高等専門学校機構に帰属
- ・平成17年(2005年)
**情報処理教育センターが総合情報センターに
編入学を第3学年または第4学年編入学に**
- ・平成19年(2007年)
東工大、静大と教育研究交流協定締結
- ・平成21年(2009年)
豊橋技科大と教育研究交流協定締結
- ・平成23年(2011年)
沼津市、静岡医療センターと連携
- ・平成23年(2011年)
新カリキュラム(学際教育)スタート
創立50周年記念式典挙行
- ・平成24年(2012年)
静岡県と連携に関する協定締結
- ・平成26年(2014年)
新専攻科・総合システム工学専攻3コースがスタート

2

学校概要



所在地 静岡県沼津大岡3600 専攻科
 創立 昭和37年4月1日
 学科 機械工学科
 電気電子工学科
 電子制御工学科
 制御情報工学科
 物質工学科
 教養科

総合システム工学専攻
 環境・IT時代工学コース
 新機能材料工学コース
 医療福祉機器開発工学コース
 学生総数 1,103名
 施設 敷地 89,598m²
 建物 36,017m²

学校長 藤本晶

教員 84名
 博士 58名
 修士 22名
 学士 3名
 短大 1名

【平成27年5月1日現在】

収入・支出決算額(平成26年度)

区分(千円)	
収入	運営費交付金 143,045
	自己収入(授業料・入學料等) 287,334
	産学連携等研究収入 20,470
	寄付金収入 その他補助金 7,511 2,075
合計 460,460	
支出	業務費(教育研究経費・支援経費) 336,235
	業務費(一般管理費) 87,201
	産学連携等研究経費 15,179
	寄附金事業費 その他補助金 12,134 2,075
合計 462,324	

3

認証評価・外部評価 等

平成16年度 日本技術者教育認定機構
 (JABEE)認定

「総合システム工学分野」(4・5学年+専攻科)

平成17年度 (独)大学評価・学位授与機構
 「機関別認証評価」

外部評価「実技科目
 (実験・実習・演習など)」

平成18年度 JABEEの中間審査

専攻科定期審査(7年毎)

外部評価「コミュニケーション
 ・プレゼンテーション能力育成」

外部評価「工学基礎教育」
 運営諮問会議

平成19・20年度
 平成21年度

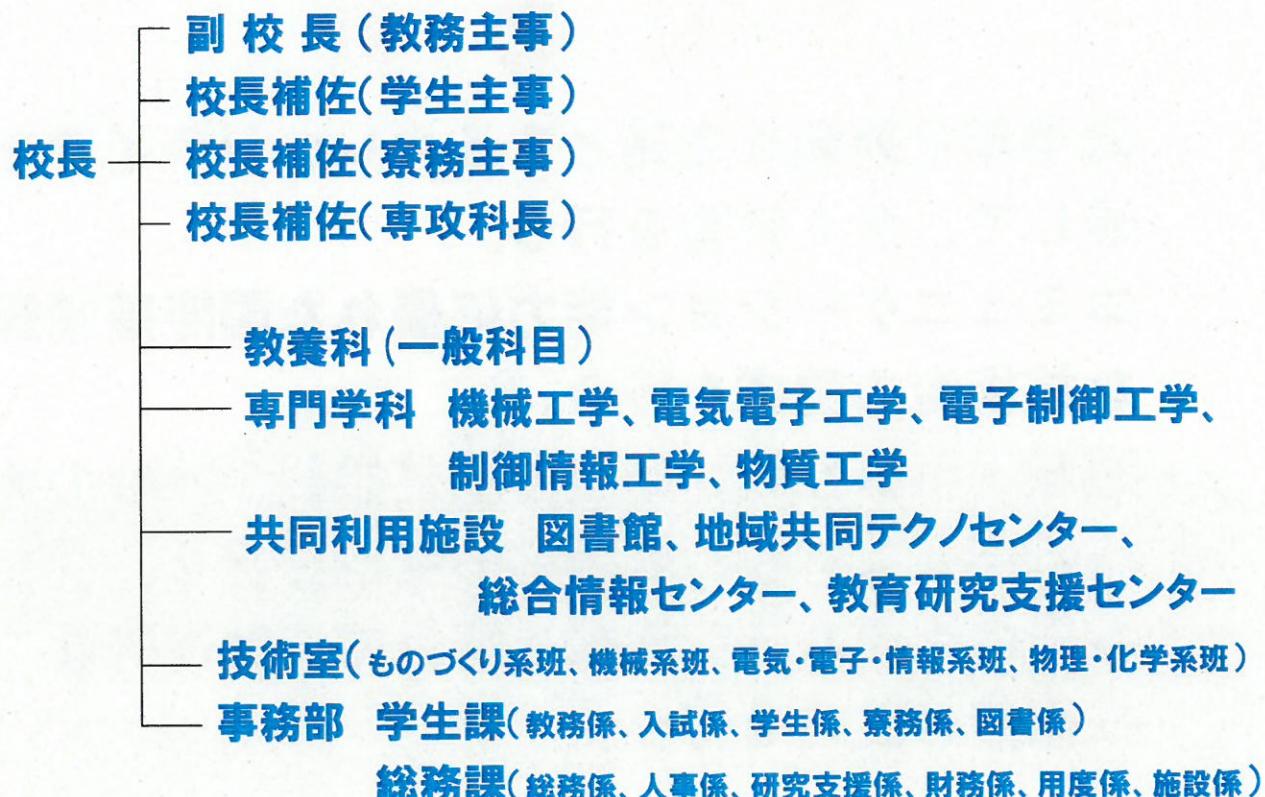
JABEEの継続審査
 (平成26年度まで認定)

「機関別認証評価」

運営諮問会議
 運営諮問会議
 運営諮問会議
 運営諮問会議
 運営諮問会議

平成22年度
 平成23年度
 平成24年度
 平成25年度
 平成26年度

平成25年度からの組織の改変



5

教育理念

人柄のよい優秀な技術者と
なって世の期待にこたえよ

6

教育方針

- ・低学年全寮制を主軸とするカレッジライフを通じて、全人教育を行う。
- ・コミュニケーション能力に優れた国際感覚豊かな技術者の養成を行う。
- ・実験・実習及び情報技術を重視し、社会の要請に応える実践的技術者の養成を行う。
- ・教員の活発な研究活動を背景に、創造的な技術者の養成を行う。

7

学習・教育目標

沼津高専は、学生が以下の能力、態度、姿勢を身につけることを目標とする。

- ・技術者の社会的役割と責任を自覚する態度
- ・自然科学の成果を社会の要請に応えて応用する能力
- ・工学技術の専門的知識を創造的に活用する能力
- ・豊かな国際感覚とコミュニケーション能力
- ・実践的技術者として計画的に自己研鑽を継続する姿勢

8

養成すべき人材像

社会から信頼される、指導力
のある実践的技術者

9

学生受入れ方針（アドミッションポリシー）

- ・科学技術に興味を持ち、入学後の学習に
対応できる基礎学力を身に付けている人
- ・自ら学習し、科学技術の知識を用いて
社会に貢献する意思のある人
- ・科学技術の社会的役割と技術者の責任に
ついて考えることができる人
- ・他人の言うことをよく聞き、自分の意見
をはっきりと言える人

10

平成24年度入学生より
沼津高専は新しい教育カリキュラムを導入しました

一混合学級と学際教育の導入一

目的 環境・エネルギー、新機能材料、医療・福祉分野を重視する近年の産業構造の変化に対応できるエンジニアを育成

具体策

- ・低学年 ⇒ 従来からの専門導入基礎実験に加えて他分野の基礎実験実習を体験できるよう混合学級編成を導入
- ・高学年 ⇒ 所属学科の基盤科目と並行して学際分野の科目を受講できるよう教育課程を改定

11



12

新教育課程ー混合学級と学際教育の導入ー の実施状況

1学年 混合学級

工学基礎Ⅰ(座学)1単位 通年

工学基礎Ⅱ(実験・実習) 2単位 通年

第1期 機械・電気・情報・化学・ものづくり、5分野(10週)

第2期 機械・電気・情報・化学・ものづくり、5分野(10週)

第3期 PBL実験・実習「メカトロ・ダーツ」(10週)

2学年 ミニ研究 1単位(前期に実施)

公開発表会を実施

13

教育課程の学年別構成(機械工学科の場合)

楔型教育カリキュラムの内訳 (総開講単位数 : 174単位)

学年	10				20				30 単位			
	数学	物理	化学	(他の一般科目)					工学基礎	専門科目		
1年	数学	物理	化学	(他の一般科目)					工学基礎	専門科目		
2年	数学	物理	化学	(他の一般科目)		ミニ研究	実験・製図		実験・製図	専門科目		
3年	数学	物理	化学	(他の一般科目)	学際科目	応用物理	実験・製図		実験・製図	専門科目		
4年	(一般科目)	学際科目	応用数学	応用物理	実験・製図・演習					専門科目		
5年	(一般科目)	学際科目	卒業研究		実験・製図・演習					専門科目		

卒業認定修得単位数 : 167単位以上

(一般科目 : 75単位以上、専門科目 : 82単位以上)

学際科目 : 環境・エネルギー分野、新機能材料分野、医療・福祉分野 (各6単位)

14

工学基礎Ⅰ(座学) 1単位 通年

- ・全1年生(213名)を3分割し、3箇所の教室で同時に授業を実施(3名の教員が授業担当)
- ・授業内容は以下の通り(抜粋)

押川 安全教育(薬品・火気・事故対応・知的財産基礎)

勝山 高専の勉強の仕方・ノートの重要性・報告書の書き方・誤差と有効数字・地球環境(ゴミの分別と排水)

遠山 電流計・電圧計の使い方・電卓の使い方・SI単位とJIS規格

15

工学基礎Ⅰ(1単位 通年、座学の様子)



16

工学基礎II(実験・実習) 2単位 通年

- ・混合学級5クラスが、5分野(機械系・電気系・情報系・化学系・ものづくり系)の専門基礎実験・実習をローテーションで学習

第1期 5分野を各2週 10週 (+第1期のまとめ1週)

第2期 5分野を各2週 10週 (+第2期のまとめ1週)

第3期 PBL実験・実習「メカトロ・ダーツ」

8週 (+第3期/全体のまとめ1週)

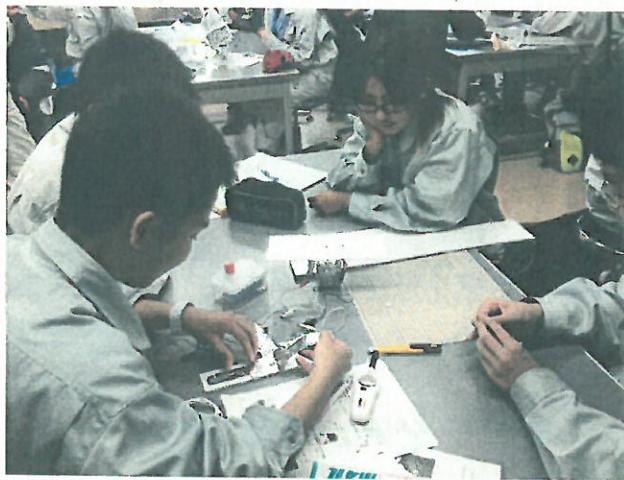
- ・指導者:各専門学科の教員2名(計10名)と、各分野に1名の技術職員(計5名)

17

工学基礎II:第1期(11週)のスケジュール

クラス・実施時期	4月	5月	5・6月	6月	7月	7月
1-1組	機械系分野 正しいネジの使い方	電気系分野 コヒーラとアンテナ	情報系分野 計測と誤差	化学系分野 食品成分の検出	ものづくり分野 レゴロボット製作	
1-2組	電気系分野 コヒーラとアンテナ	情報系分野 計測と誤差	化学系分野 食品成分の検出	ものづくり分野 レゴロボット製作	機械系分野 正しいネジの使い方	
1-3組	情報系分野 計測と誤差	化学系分野 食品成分の検出	ものづくり分野 レゴロボット製作	機械系分野 正しいネジの使い方	電気系分野 コヒーラとアンテナ	まとめ
1-4組	化学系分野 食品成分の検出	ものづくり分野 レゴロボット製作	機械系分野 正しいネジの使い方	電気系分野 コヒーラとアンテナ	情報系分野 計測と誤差	
1-5組	ものづくり分野 レゴロボット製作	機械系分野 正しいネジの使い方	電気系分野 コヒーラとアンテナ	情報系分野 計測と誤差	化学系分野 食品成分の検出	18

工学基礎II(第1期) 実験の様子



電気系分野
コピーとアンテナの実験



ものづくり系分野
レゴロボット製作

19

工学基礎II: 第2期(11週)のスケジュール

クラス・実施時期	7月	9月	10月	10月	11月	12月
1-1組	機械系分野 スターングエンジン	電気系分野 抵抗の測定	情報系分野 プログラミング	化学系分野 化学電池の製作	ものづくり分野 モータの分解	まとめ 20
1-2組	電気系分野 抵抗の測定	情報系分野 プログラミング	化学系分野 化学電池の製作	ものづくり分野 モータの分解	機械系分野 スターングエンジン	
1-3組	情報系分野 プログラミング	化学系分野 化学電池の製作	ものづくり分野 モータの分解	機械系分野 スターングエンジン	電気系分野 抵抗の測定	
1-4組	化学系分野 化学電池の製作	ものづくり分野 モータの分解	機械系分野 スターングエンジン	電気系分野 抵抗の測定	情報系分野 プログラミング	
1-5組	ものづくり分野 モータの分解	機械系分野 スターングエンジン	電気系分野 抵抗の測定	情報系分野 プログラミング	化学系分野 化学電池の製作	

工学基礎II(第2期)の実験の様子



化学系分野 化学電池の製作



情報系分野 プログラミング

21

工学基礎II:第3期(9週)のPBL実験のスケジュール

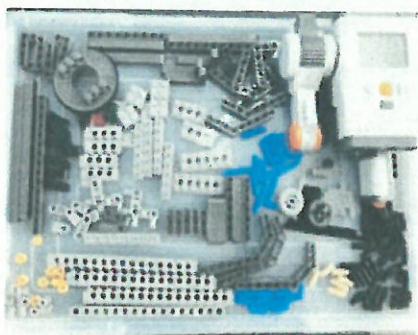
クラス・施時期	11月	12月	12月	12月	1月	1月	1月	1月	2月
1-1組									
1-2組									
1-3組									
1-4組					班別作業 ①	班別作業 ②	班別作業 ③	班別作業 ④	まとめ
1-5組	ガイダンス・競技説明	標準機の組立ヒルール説明	アイディア出しと提案書作成						

22

工学基礎II(第3期) PBL教育の取り組み準備

(第3期)は(第1期)と(第2期)の基礎実験を踏まえて、レゴブロックによるダーツを製作するPBL教育。

指導する教員と技術職員は学科と専門性を越えて指導しなければならない。



レゴブロック



ダーツ

23

工学基礎II(第3期) PBL教育のため の教職員への講習会の様子



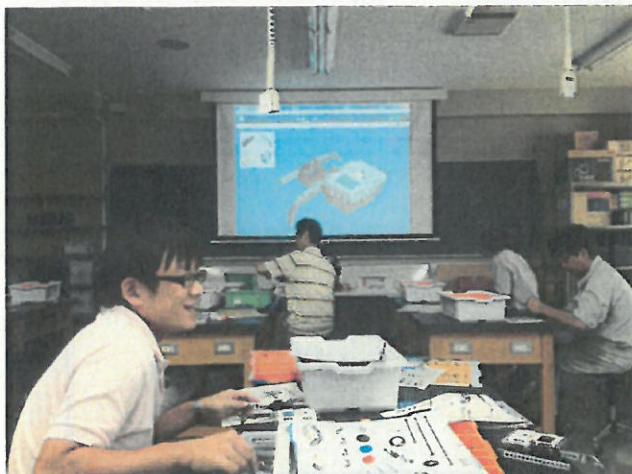
教員に対するレゴと歯車に関する講習



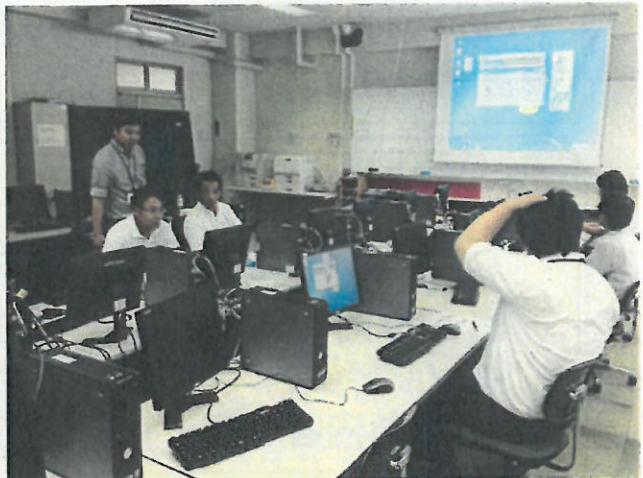
同講習会への技術職員の積極的参加

24

工学基礎II(第3期) PBL教育のための 指導教員・技術職員への講習の様子



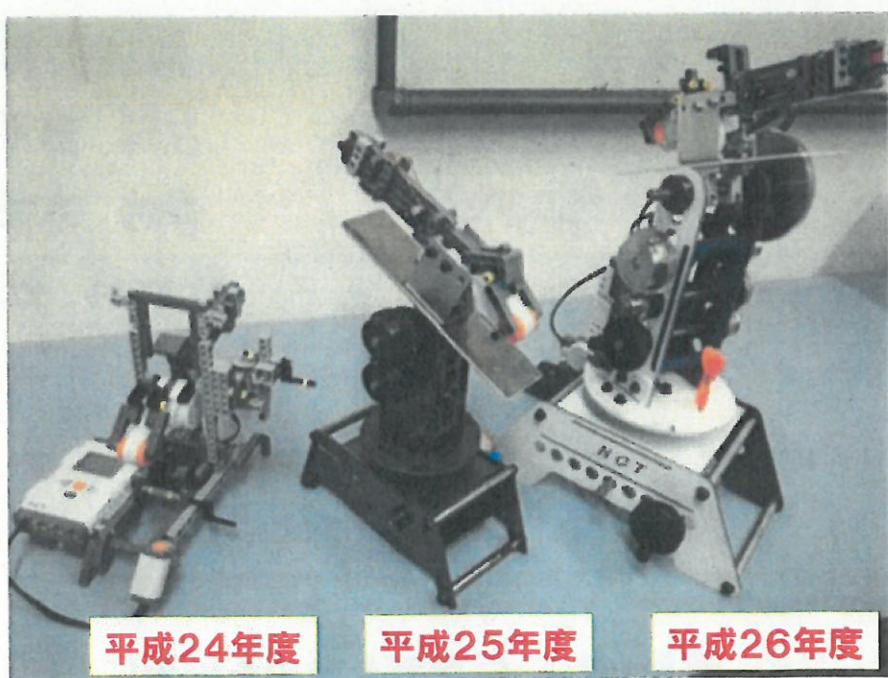
レゴ制御のプログラミング



プログラミングの講義

25

工学基礎II(第3期) PBL教育の目標とする作品



平成24年度

平成25年度

平成26年度

各年度の目標とするダーツ作品

26

2学年 ミニ研究(1単位) 前期に実施

【全教員を指導教員とするPBL教育】

学科を越えた学生2~3人でチームを編成し、各チームに課題を与えて、
実施計画→下調べ→研究調査・実験→まとめと成果発表
までの一連の手順を学生自らが企画・実行する。
教員はこれをサポートする。

【ミニ研究の目的】

- ① 学ぶことの楽しさを体験する。
- ② 自律的に学習する姿勢を養う。
- ③ プレゼンテーションまでの一連のプロセスを経験する。
- ④ 活動内容を第三者に伝える。

ミニ研究は教員指導型ではなく、学生自らが調査・研究を行い、ものづくりは自ら考案工夫すること。また、アカデミックな内容に偏らないこと。

成績評価：主査+副査の2名の教員

27

ミニ研究テーマ（全70テーマから抜粋）

テーマ名*	指導教員
人を診る～動作・生体信号解析～	D科 青木
バドミントンロボット開発part2	D科 大沼
長泉ジオマップの作成	教養科 佐藤
•	
•	
•	

*全70テーマ中、教員・学生・保護者を含めた投票による
優秀ポスター賞該当の研究テーマ

28

ミニ研究の様子



♪和音を出す風鈴



ロボカップジュニアに出場しよう

ミニ研究 発表会の様子 (2014.9.26)



ミニ研究発表会全体の風景



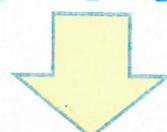
保護者も参観

【平成25年まで】 3専攻（定員20名）

機械・電気システム専攻

制御・情報システム工学専攻

応用物質工学専攻



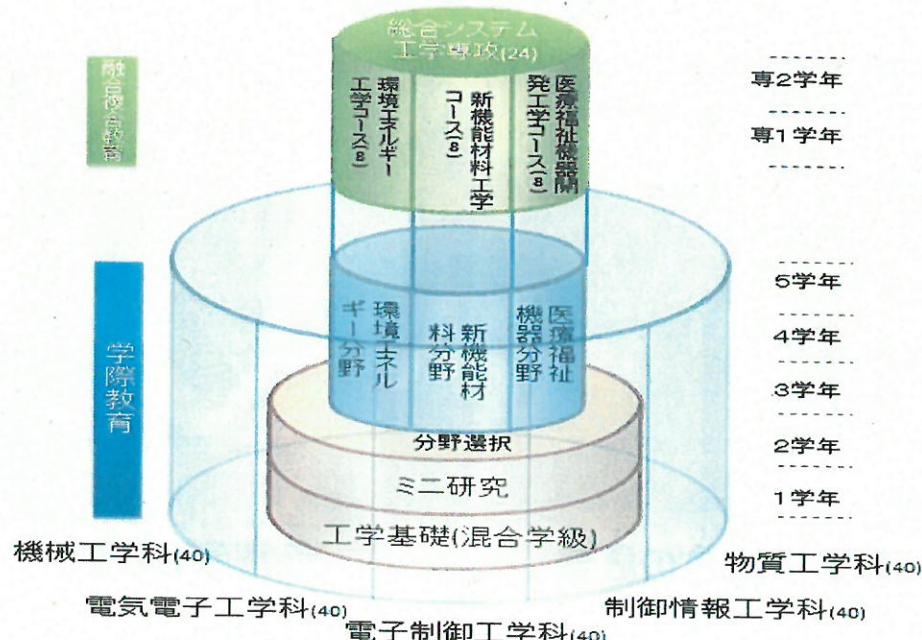
**【改編後】 1専攻3コース 平成26年度より
総合システム工学専攻（定員24名）**

環境エネルギー工学コース	14名
新機能材料工学コース	15名
医療福祉機器開発工学コース	21名

31

沼津高専7年一貫教育(本科・学際教育と専攻科の連続性)

沼津高専 学際教育・専攻科コース制概要



32

学生寮

現員**557**名(留学生6名を含む)

男子484名、女子73名 【平成27年5月1日現在】



「翔峰寮」

●低学年全寮制 ●寮生会による自治運営

33

学生寮

寮の食事風景

平成27年5月1日現在

在寮生 557人

男子 484人、女子 73人

(男子寮6棟、女子寮1棟)



談話室風景

マテ力(寮生会主催の勉強会)



34

教育研究支援センター

医用機器開発分野

医用機器開発実験室Ⅰ

自動解析心電計、超音波診断装置
体外循環回路、エリプソメータ（薄膜計）
筋電図・誘発電位検査装置

医用機器開発実験室Ⅱ

重心動搖計システム、病室設備機器
モーションキャプチャーシステム
医療機器教材

計測・分析分野

レーザーラマン分光装置、
走査型電子顕微鏡、
高性能CNC三次元測定機、
万能投影機、工具顕微鏡

ものづくり教育分野

ものづくり創造工房エリア

レーザー加工機、溶接設備、
手仕上げ加工設備、
プレス加工機（2台）

鋳鍛造エリア

鋳造設備、鍛造設備

工作機械室

マシニングセンタ、CNC旋盤、
ワイヤ放電加工機、旋盤（11台）、
フライス盤（3台）、平面研削盤、
円筒研削盤、横中ぐり盤、
ボール盤（3台）

35

医用機器開発分野



筋電図・誘発電位検査装置

神経筋疾患の補助診断法のひとつである「筋電図」と、視覚や聴覚、末梢の知覚神経を刺激し、刺激することで現れる脳波に混じっている波形を調べる「誘発電位」を検査するための装置



対外循環回路（人工心肺装置）

心疾患患者の開胸手術中に心臓と肺の代行を行う体外循環用装置

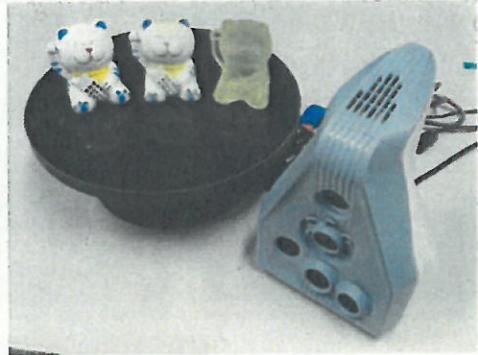
36

計測・分析分野



核磁気共鳴装置

9.4テスラの超電導磁石が作る強力な磁場の中に試料を配置し、ラジオ波を照射して分析を行う。液体、固体を問わず有機分子や無機化合物の構造や運動に関する情報を入手することができる装置



非接触3次元スキャナ

非接触でかつハンディタイプのスキャナーで、測定形状を周囲から連続的に撮影することで、3次元立体形状を生成する装置

37

ものづくり教育分野



安全には特別の配慮

全学科の学生が
ものづくり実習を体験



38

総合情報センター

第1演習室



第2演習室



39

図書館



40

学生の福利厚生施設



尚友会館

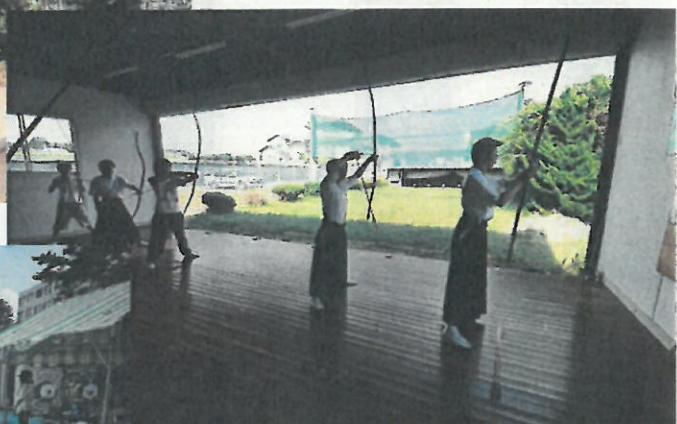
- ・食堂
- ・売店

学生支援ゾーン

- ・学生課事務室
- ・保健室
- ・カウンセリング室
- ・学生生活支援室
- ・学生キャリア支援室



武道場



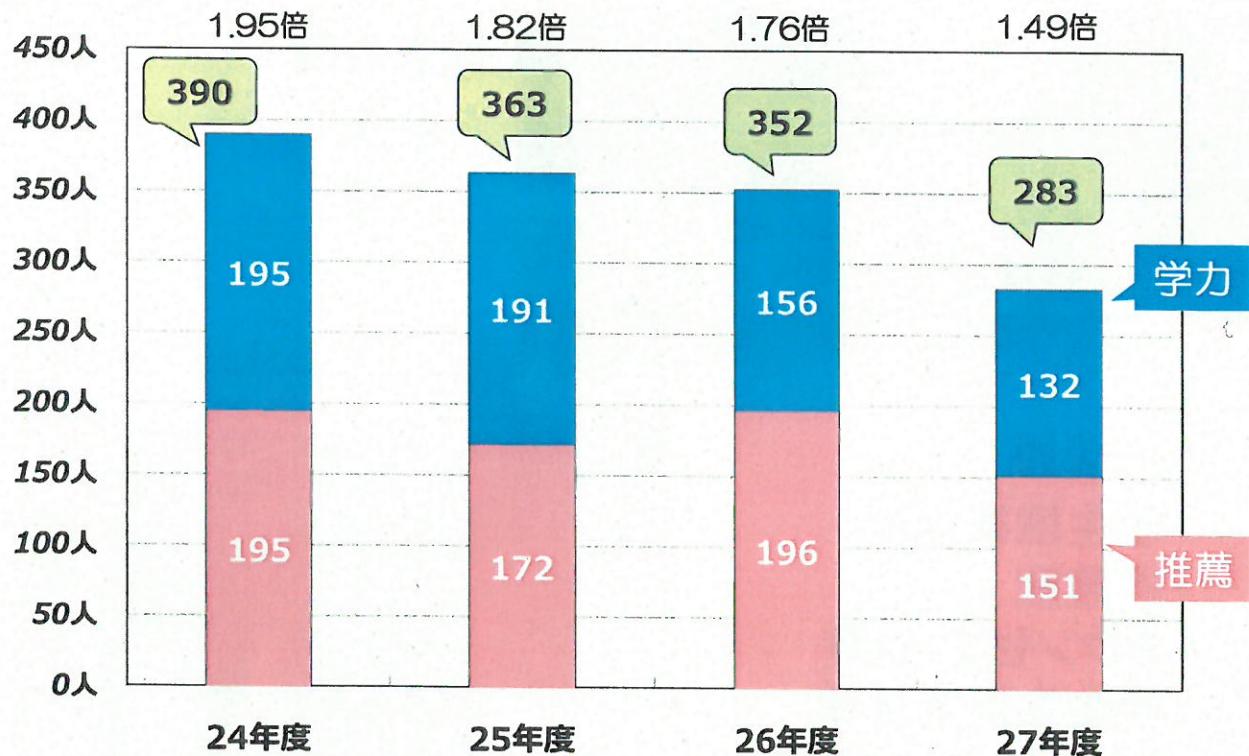
弓道場



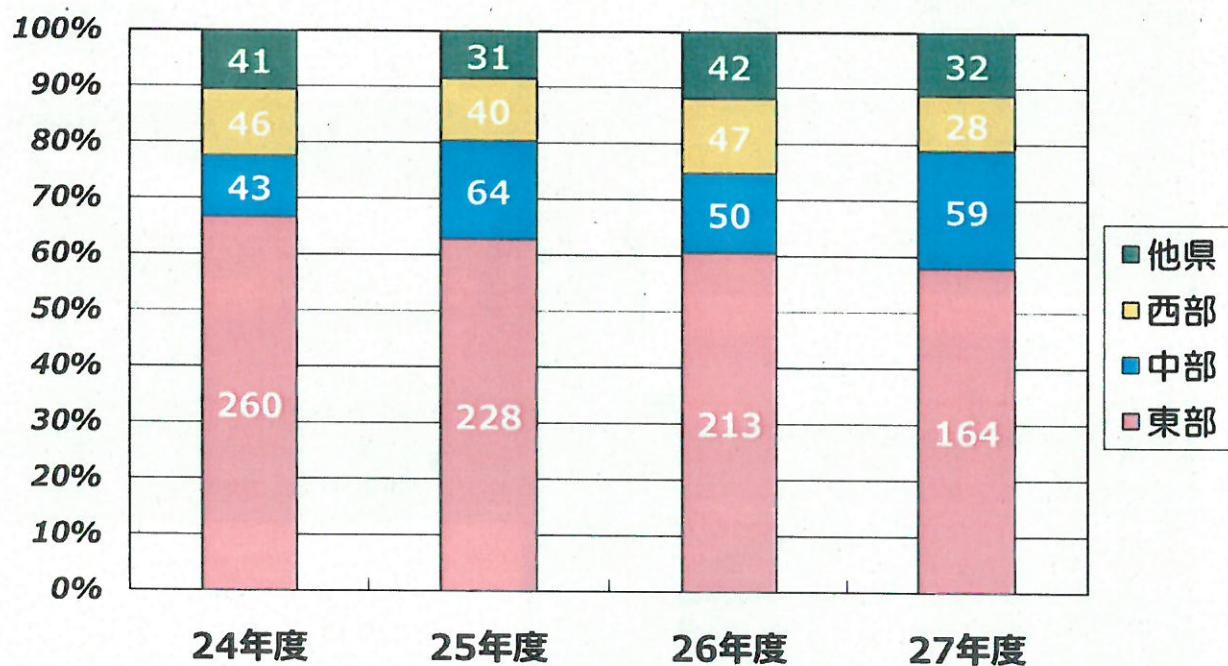
プール

42

志願者状況(24~27年度)



志願者地区別割合(24~27年度)



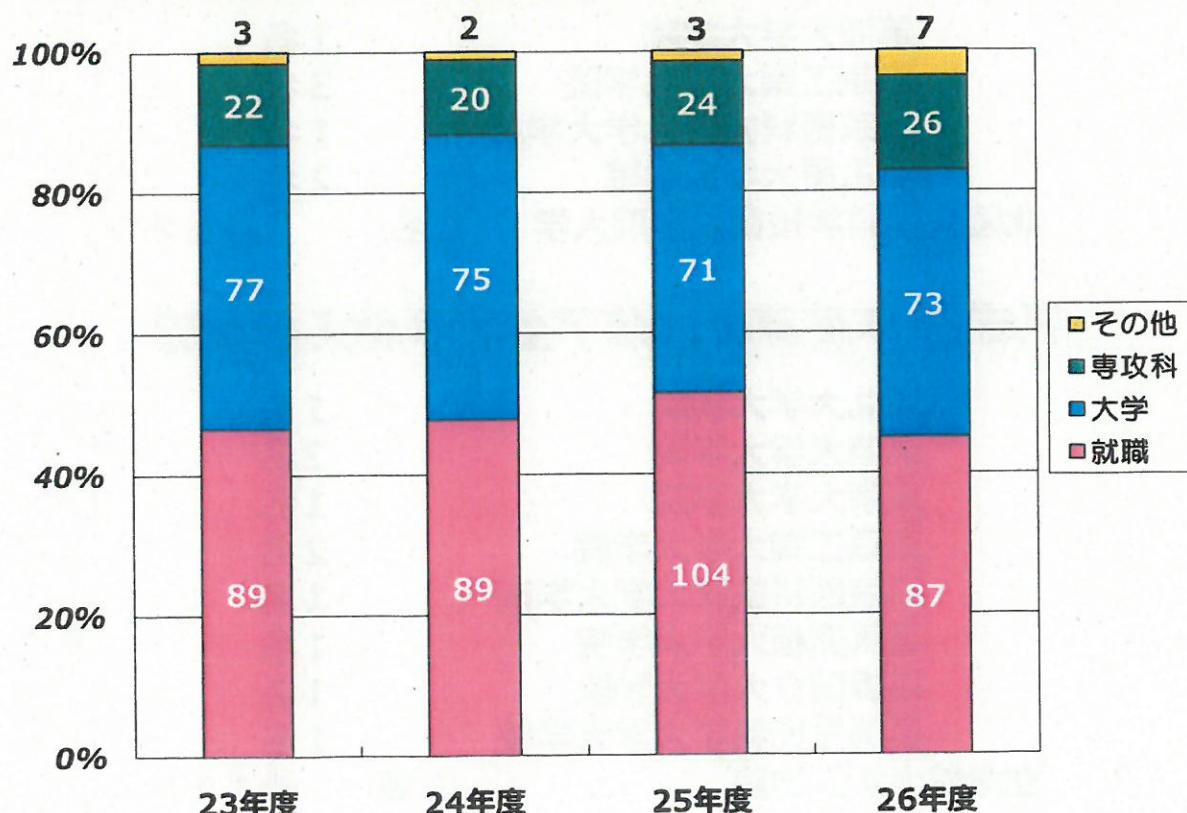
学生数(出身地別H27.4月1日現在)

専攻科生を除く

地区別	静 岡 県			神奈川 県	山梨県	その他	外国人 留学生	合 計
	東 部	中 部	西 部					
学生数	675 (115)	166 (26)	113 (18)	86 (5)	5 (1)	2 (1)	6 (1)	1,053 (167)
割 合 %	64.0	15.8	10.7	8.2	0.5	0.2	0.6	100 (15.9)

()内は女子数で内数・割合は、概数

卒業生進路(23~26年度)



大学編入学状況(24~27年度)

大学名	H24	H25	H26	H27	大学名	H24	H25	H26	H27
北海道	3	1	0	1	名古屋	4	2	1	1
東北	2	0	3	1	豊橋技術	16	18	15	15
筑波	3	5	3	2	大阪	1	5	3	3
千葉	2	7	4	9	神戸	0	0	1	0
東京農工	5	5	1	8	広島	3	0	1	0
東京工業	3	4	4	6	九州	0	0	1	0
横浜国立	1	2	2	4	首都	2	1	0	1
長岡技術	5	3	4	5	立命館	0	1	1	2
静岡	3	3	5	2	その他	23	16	23	13

平成25年度専攻科修了生大学院入学状況

筑波大学大学院	1名
東京工業大学大学院	3名
東京医科歯科大学大学院	1名
名古屋大学大学院	2名
北陸先端科学技術大学院大学	1名
	計8名

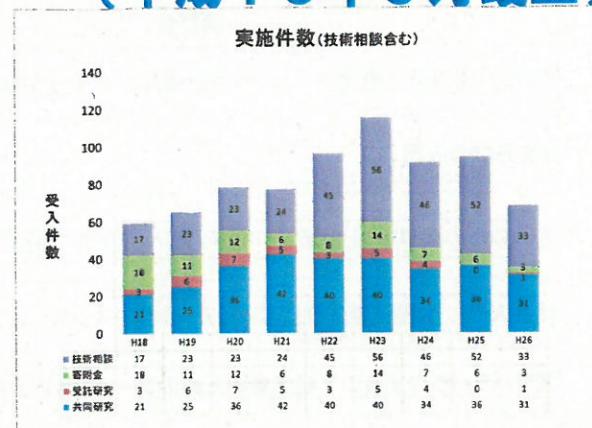
平成26年度専攻科修了生大学院入学状況

東北大大学院	1名
筑波大学大学院	2名
東京大学大学院	1名
東京工業大学大学院	2名
東京医科歯科大学大学院	1名
電気通信大学大学院	1名
横浜国立大学大学院	1名
長岡技術科学大学大学院	1名
立命館大学大学院	1名
	計11名

地域共同テクノセンター（平成16年3月竣工）



※事業報告書より産学連携活動以外(預金利息、教育後援会等)を除く数字を計上



外部資金の獲得状況（平成25年度実績）（総合上位20校／全国51高専中）

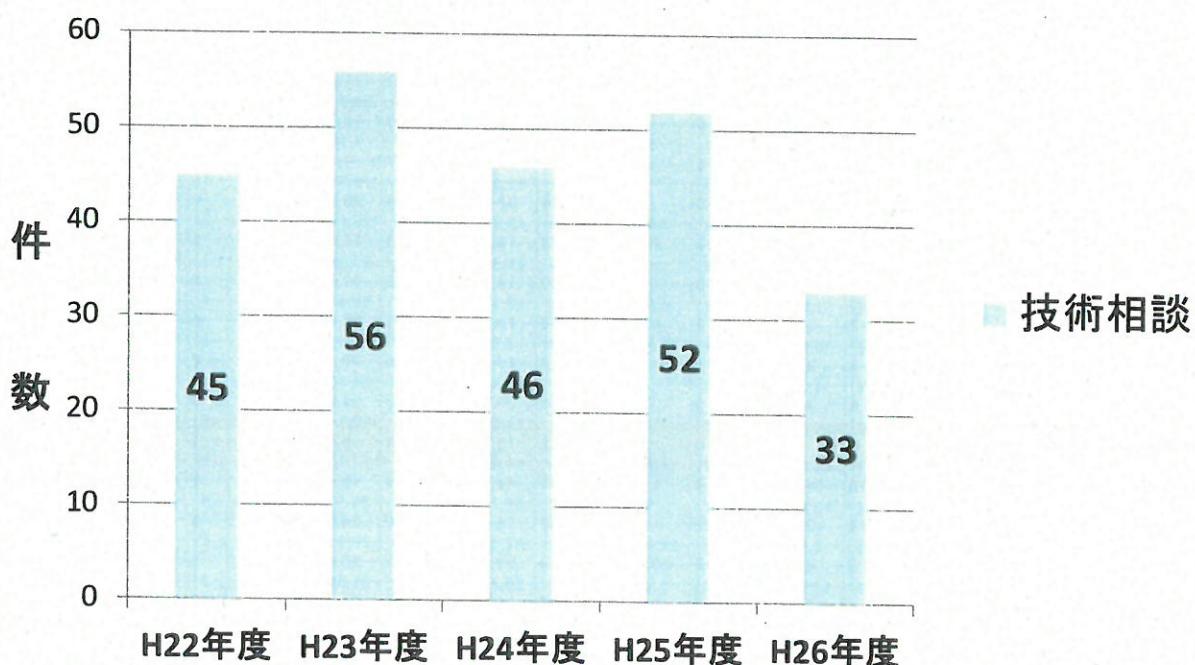
総合順位	高専名	共同研究		受託研究		受託事業等		寄附金		科学研究費補助金代表者・分担者		その他補助金等		合計金額		
		順位	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	順位	件数	金額			
1	仙台	14	3,862,508	14	16,133,374	2	1,102,500	531	31,081,134	38	49,183,000		2	49,588,497	150,931,013	
2	長岡	22	7,700,000	5	62,110,000	1	1,957,710	72	24,871,170	17	31,954,000		1	1,500,000	130,092,880	
3	沖縄	17	9,305,000	15	64,903,084	2	12,492,823	269	14,409,118	17	21,057,000		2	4,426,334	126,593,359	
4	高知	16	8,961,100	6	42,048,792	0	0	273	13,484,340	16	58,760,000		1	1,544,250	124,778,482	
5	一関	9	4,185,500	13	40,921,724	1	327,024	878	18,644,728	7	7,165,000		3	52,428,491	123,672,467	
6	鶴岡	24	17,856,300	24	57,080,906	0	0	24	32,054,317	9	13,210,000		1	755,000	120,956,523	
7	福島	17	4,713,580	10	7,736,284	6	7,613,756	23	13,977,087	13	16,640,000		3	55,533,515	106,214,232	
8	富山	45	11,470,000	11	23,898,614	0	0	20	14,858,681	25	37,663,000		1	15,171,354	103,061,649	
9	豊田	18	7,940,000	2	1,502,060	3	6,564,000	13	13,187,250	21	29,407,344		1	44,428,800	103,029,454	
10	東京	8	1,248,249	6	3,848,401	11	745,150	19	17,951,000	19	30,850,000		1	41,183,779	95,826,579	
11	明石	14	3,693,000	4	4,788,500	0	0	11	20,942,158	16	24,390,000		1	37,006,377	90,820,035	
12	沼津	①	31	21,006,000	0	0	0	9	13,046,000	11	10,140,000	⑤	3	44,437,927	88,629,927	
13	八戸		13	4,800,000	13	14,895,700	7	1,429,173	18	44,416,355	15	19,430,000		2	1,808,000	86,579,228
14	奈良		16	6,078,600	14	13,555,601	2	649,573	399	26,738,875	30	34,541,000		3	3,124,000	84,687,649
15	鈴鹿		17	7,522,000	5	4,008,800	5	20,441,600	30	27,806,573	15	20,631,245		1	3,177,160	83,587,378
16	松江		15	8,012,650	8	12,779,270	6	9,435,273	587	26,759,815	18	21,515,000		2	2,000,000	80,502,008
17	宇部		14	6,985,100	9	11,069,115	0	0	75	20,273,805	23	41,729,797		0	0	80,057,817
18	広島商船		9	5,237,757	1	1,781,370	0	0	8	7,956,400	7	7,030,000		2	56,647,912	78,653,439
19	鹿児島		11	6,650,000	2	3,293,525	795	14,484,730	352	22,441,629	5	5,915,000		1	21,121,580	73,906,464
20	香川		18	8,084,000	5	5,765,770	0	0	137	24,880,401	22	28,893,000		1	6,000,000	73,623,171

平成26年度 公開講座実施一覧

講座名	受講対象者	受講者数	満足度
パソコン組み立て教室－パソコンの仕組みとソフトウェアのインストール－	一般社会人 (高校生以上)	4	100%
3次元CAD入門	一般社会人 (中学生以上)	8	100%
大人のためのロボット教室－ロボカップジュニアの指導者を目指して－	一般社会人	3	100%
社会人向け情報技術基礎講座①(データベースシステム)	一般社会人	7	100%
波でバラバラにする！？初学者のためのフーリエ解析入門	一般社会人 (高校生以上)	11	100%
設計しながら学ぶCPUの動作原理	これからデジタル回路の教育や設計を目指す方	1	100%
易しい絵本から始める英語多読体験講座	一般社会人 (中学生以上)	25	92.6%
3Dプリンタの紹介と3機種による造形物の精度比較 -Additive Manufacturing の可能性-	企業技術者	8	100%
社会人のためのエレクトロニクス基礎講座①(ファーストステップコース) ～回路に経験の無い企業エンジニアの方に、基礎的な電子回路のスキルを～	企業技術者	5	100%
社会人のためのエレクトロニクス基礎講座②(ステップアップコース) ～回路に経験の無い企業エンジニアの方に、基礎的な電子回路のスキルを～	企業技術者	5	100%

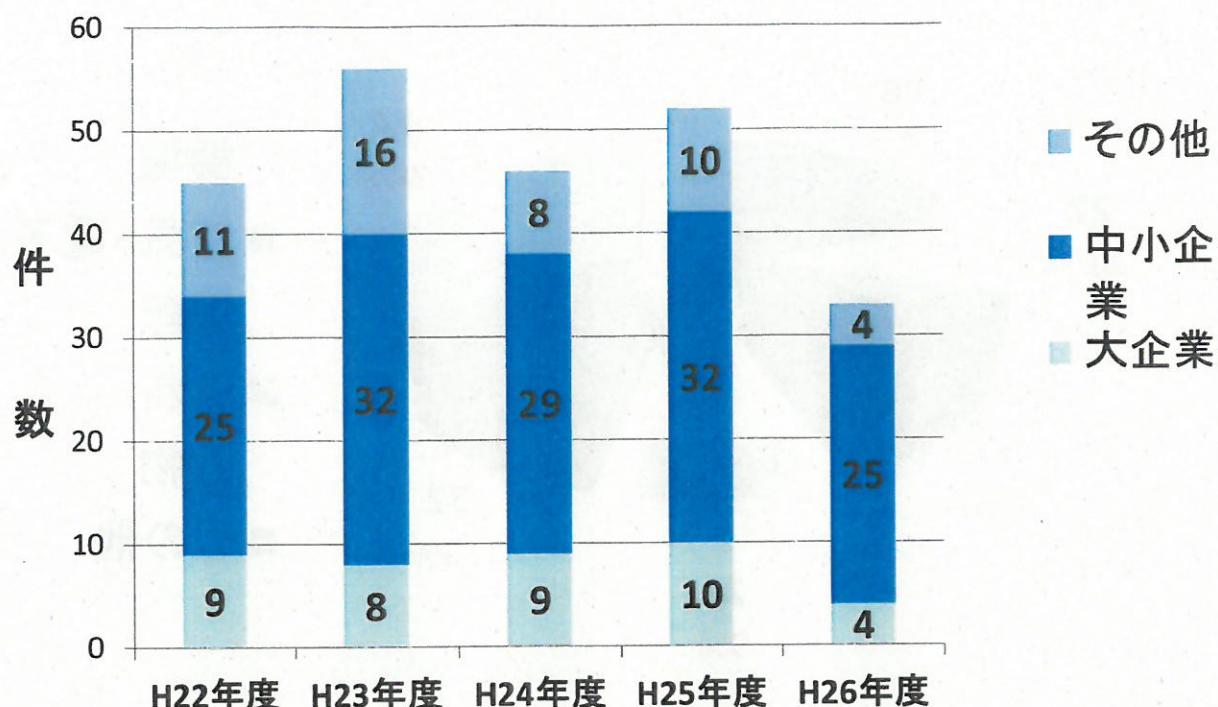
51

科学技術相談実施件数（総件数）



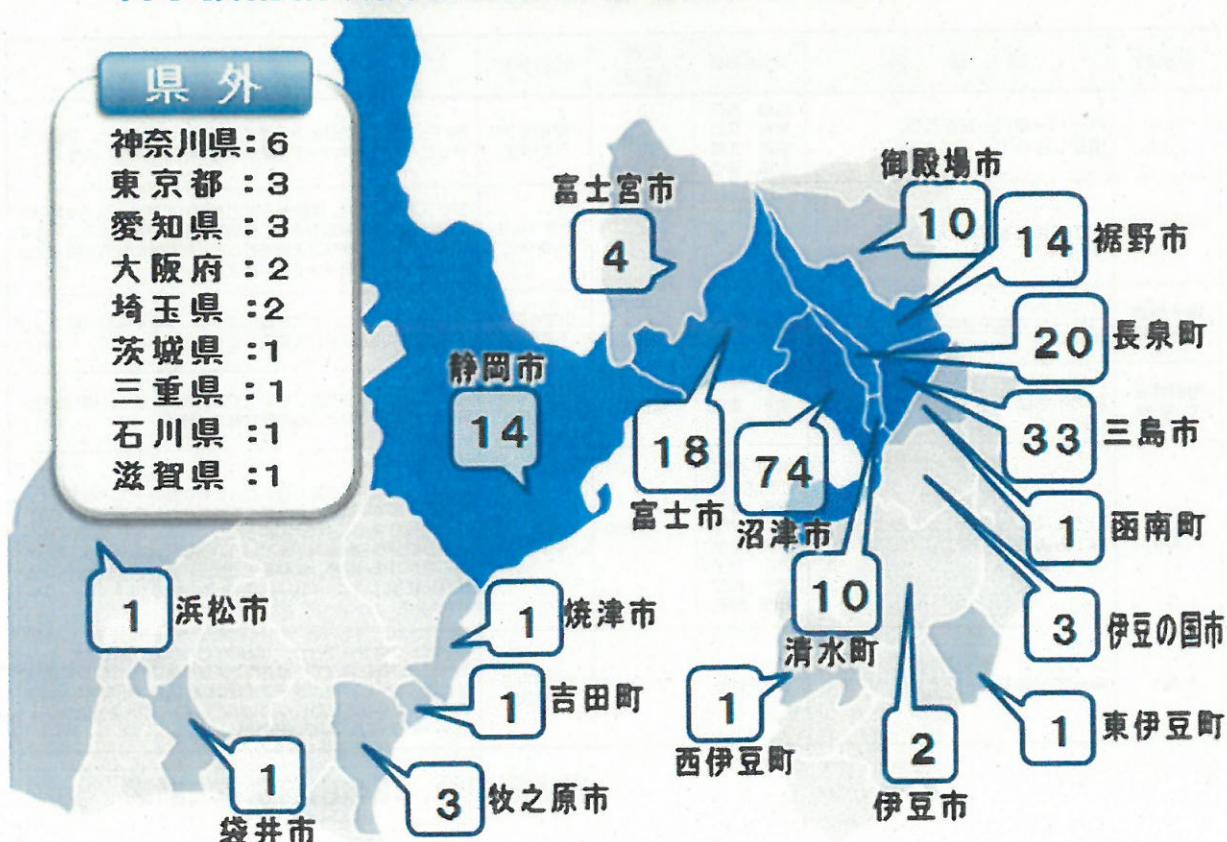
52

科学技術相談実施件数（企業規模）

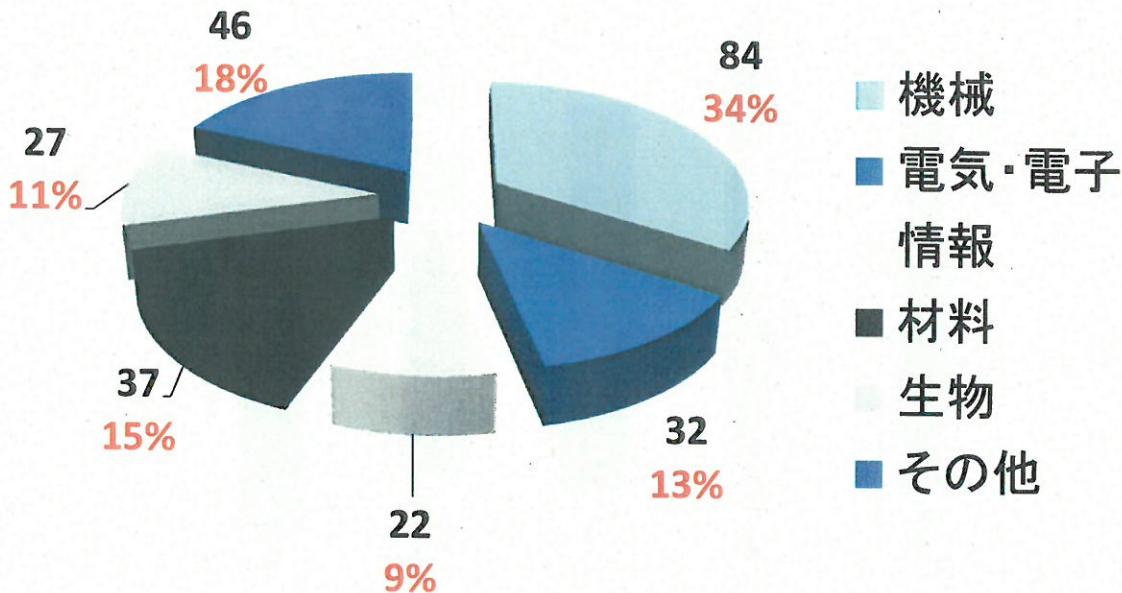


53

科学技術相談実施件数（地域別）※H22年4月～H27年3月合計



科学技術相談実施件数（分野別比率）※H22年4月～H27年3月合計



55

平成26年度出前授業

学科名	授業名	担当教職員	定員 (目安)	対象学年	授業概要
機械工学科	ペーパーホバーを作ろう、滑走しよう！	西田 友久 村松 久巳 宮内 太穂 松田 伸也	40名	小学校高学年～中学生	ホバークラフトの仕組みを簡単に説明します。また、各自が製作したペーパーホバーを空気の力を利用して滑走します。
電気電子工学科	光の不思議を体験しよう	野毛 悟	応相談	小学3年生～中学生	ブリズムや偏光板、回折格子などを用いて光の3原色や光の性質などを簡単な実験を通して体験的に学習できるようにします。偏光板を使った簡単な工作を行って、光が波の性質を持っていることを理解できるようにします。
電子制御工学科	コーヒーラで電波をキャッチ	長澤 正氏	20名	小学4年生～中学生	100年以上前に行われた電波をキャッチする実験を紙コップ、アルミホイルとLEDで再現します。
制御情報工学科	脳の不思議	宮下 真信	40名	小学4年生～中学生	視覚や聴覚の錯覚現象について紹介します。また、脳の信号を使ったりハビリなどの応用例を紹介します。
物質工学科	いろんな電池をつくってみよう、みてみよう	押川 達夫 山田祐一郎 後藤 孝信 大川 政志 福津 祥司 青山 陽子 藪科 知之 山根 説子	25名程度	小学4年生～中学生	これから的生活で意識しないわけに行かない「エネルギー」。電気エネルギーはこれからのエネルギーとして最も有望です。この電気エネルギーはどのようにして得ができるのかを、レモン電池から燃料電池までいろいろな電池を見たり、作ったりして学びましょう。燃料電池で使う、新しい水素の作り方も紹介します。
教養科	ルービックキューブで学ぼう	鈴木 正樹	40名	小学4年生～中学生	ルービックキューブとは、1980年にハンガリーのエルノ・ルービック氏によって考案された人気の高い立体的なパズルです。このルービックキューブを数学的に扱い（小学生には足し算として、中学生には群論の初步として）、2×2×2のルービックキューブに挑戦します。

※上記の他、29の出前授業を開講 56

沼津高専の平成27年度の目標

- 平成24年度からスタートした「新教育課程ー混合学級と学際教育ー」を学年進行に伴い実行に移し、昨年度3学年から継続している学際科目(環境・エネルギー、新機能材料、医療・福祉分野)の進展・充実を図る。
- 昨年度改編した専攻科の総合システム工学専攻(環境エネルギー工学コース、新機能材料工学コース、医療福祉機器開発工学コース)については、産業構造の変化や技術の高度化に対応した人材を輩出する。
- F-met は静岡県の資金援助により沼津高専特別課程として継続実施する。

57

【参考】

(1) 新教育課程ー混合学級と学際教育ーの完成

1学年 混合学級、工学基礎教育 2学年 ミニ研究

3, 4, 5学年 医療・福祉分野、環境・エネルギー分野、
新機能材料分野 各6単位の学際教育

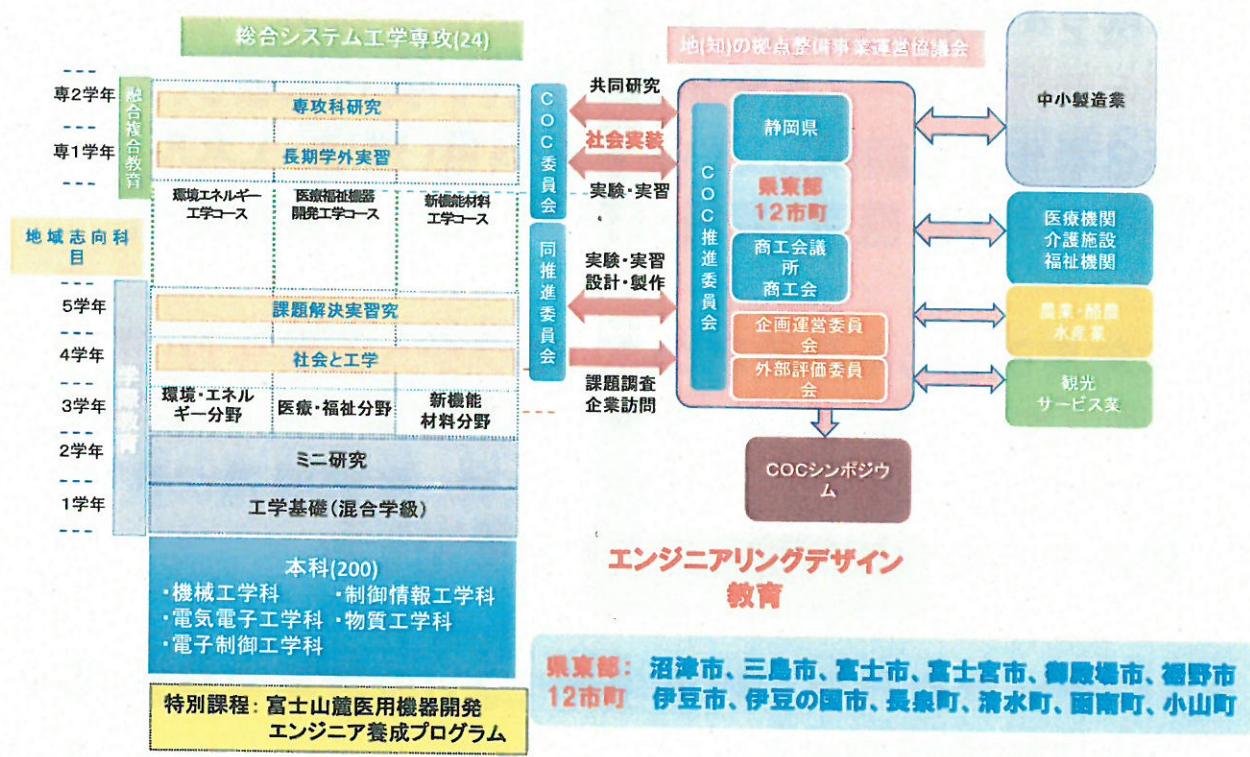
(2) 昨年度から専攻科を、総合システム工学専攻3コース

(環境エネルギー工学、新機能材料工学、医療福祉機器開発工学)に改編し、本科の学際教育とリンクして、融合・複合新領域に対応できる7年一貫の技術者教育プログラムを完成する。

(3) 静岡大学を幹事校としてCOC+事業に参画し、社会志向科目の実行によりエンジニアリングデザイン教育を実質化する。

58

COC+事業の目標：イノベーションを創出できる実践的・創造的技術者の育成



平成27年度申請中

沼津高専の当面の課題

- 入学志願者数の維持
- 工学基礎教育の充実による留年・退学の減少
 - 教員FD研修会による学生指導力の向上
 - 補習、専攻科生による放課後学習、学生寮のマテカ
- 学際教育実験棟 (文科省概算要求中) の設置に伴う「医療福祉機器開発」のための実験室・研究室・実習エリアの確保。
- 創立50周年記念して設立した国際交流基金の有効な活用方法の検討。

**沼津工業高等専門学校 年度計画
自己点検評価表**

表評価点自己検査年度計画26年度平成沼津工業専門学校

平成26年度 年度計画実施状況

第3期中期計画		平成26年度 年度計画		平成26年度 年度計画実施状況	
担当者	部 長	担当者	部 長	自己評価点	
④ 本校における特色ある教育方法の取組に基づく評議会実施等、本校の評議会実施に対する取り組みを実施するため、外部委員による授業の工夫実践例を共有する事項について公表する。	教務主事	④ 本年度も年度末、本校教員による授業の工夫実践例を調査収集し、本校のポータルサイト上に公開した。得られた情報を全教員で共有し互いの授業改善に有効活用し、参考データベースとして共有する。	教務主事	A	
⑤ 健闘別認証評価(平成23年度受審)の評価結果に基づく教育の質の保証を確保するため、外部委員による評議会実施等、本校の評議会実施に対する取り組みを実施する事項について公表する。	校長・教務主事	⑤ 平成20年度から継続的に実施している、年度計画に於ける評議会実施等、本校の評議会実施に対する取り組みを実施した。	校長・教務主事	A	
⑥ 平成23年度に受審した機関別認証評価で「優れた点」と評価された事項について継続・継続に努めた。		⑥ 平成23年度に受審した機関別認証評価で「優れた点」と評価された事項について継続・継続に努めた。			
⑦ 企業技術者や外部の専門家など、知識技術をもつた教員ある人材を活用した教育体制の構築を図る。	教務主事・学生主事	⑦ 引き続き、学生キャリア支援室を中心として、「Futureしそおか」、「就職見込み、模擬面接」等を通して、企業人材を学生のキャリア教育に活用する。	教務主事・学生主事	A	
⑧ 工程系大学、とりわけ技術科学大学との間で定期的な会議の場を設け、教員の研修、教育課程の改善、高等専門学校卒業生の維持本科学卒業後の継入学生に対して設置された技術必要な見直しを行い、より一層円滑な接続を図る。	教務主事・学生主事	⑧ 教育研究交流協定を締結した東京工業大学、静岡大及び日本大学国際開発学院学部をはじめ、豊橋技術科学大学、長岡大では6件、長岡大では2件、豊岡大、静岡大、静岡大で1件、静岡大で2件、長岡大でのインターンシップは、本年度から始まる専攻科1年生の長期学外実習の受け入れ、これまでど同様に豊橋・長岡両校と技術科学大学と本校教員の共同研究を推進する。	教務主事・学生主事	A	
⑨ インターネットなどを活用したICT活用教育の取組を充実させる。	教務主事・学生主事	⑨ ホーランドのブランクホームとしているmoodleを活用したICT活用教材や教育方法の開発、利用を継続して実施した。	教務主事・学生主事	A	
⑩ 中学校卒業直後の学生を受け入れ、かつ、相当数の学生が寄宿生活を含めた生活支援等を含めた学生支援の実施を行う。	学生生活支援室長	⑩ 全ての教員対象としたオンラインヘルス講習を教員FDD研修会にて実施する。また、学生生活支援室及びカウンセラリング室主催の講習会等を実施する。この講習会は、本校の「ドリームヘルス」を含めた学生支援の実施を行う事項の真の向上及び支援等に対する中核的人材の育成等を推進する。	学生生活支援室長	A	
⑪ 施設金などの学生支援施設の計画的な整備を図る。	学生主事	⑪ 都市計画上の諸課題を解決し、平成26年度の新築建設の要求を行つ。ハーブリッド図書館構想として電子ジャーナル等の導入、新リキュラム対応の資料については引き続き検討、整備を進めていく。図書館改修の実現に向け、予算要求を引き続き検討する。	図書館長・業務主事	A	
⑫ 独立行政法人日本学生支援機構など紧密に連携し、本校における各種奨学金制度など学生支援に係る情報の提供体制を実現させることにより、産業界等の支援による実現を図る。	学生主事	⑫ 各種奨学金に關する情報を集約した学内限定制ホームページの情報の更新を行う。50周年記念事業の一環として創設された国際交流基金の運用を継続する。	学生主事	A	

平成26年度 年度計画

平成26年度 年度計画実施状況

第3中期計画		平成26年度 年度計画		平成26年度 年度計画実施状況	
③技術科学大学との連携の成果を活用し、本校の研究対象を具体的に評価するための体制を整備し、全国的に展開する。 ④教員の研究分野や共同研究、受託研究の研究費など多様な財体を、データベース化して本校における公開講座を充実する。	③本校が維持する研究の財産について、静岡ITO等に情報を提供し、知的財産権化に努める。また、WEB上でこの財産権を公開して引き続き検討を行う。 ④研究交流協定を締結した東京工業大学、静岡大学及び日本大学国際関係学部をはじめ、豊富な連携を生じた具体的な連携を継続して実践する。	⑤社会人対象の公開講座(小・中学校)に対する理研教育支援委員会の参加者の7割以上から評議されるように、地域の生涯学習等を通じて本校における公開講座を充実する。	⑤社会人対象の公開講座(小・中学校)について、引き続き専門学学科と教養科の全ての学科から1人座以上を実施し、技術者育成への取り組みを推進する。また、講座登録料、データベース及び内容についてより柔軟に対応するなどして、引き続き静岡県東部カノン・リバーフロント沿岸高専等へ向けて実施する。	⑤静岡県の認定講習の認可を受けた「富士山麓用機器開発エンジニア養成プログラム(F-meal)」を沼津高専特別講習として実施し、14名の社会人受講生に終了を認定し、専用器具開発中校人材に貢献することにより静岡県が表彰を行った。 ⑥第2回地域連携・研究支援委員会において、研究・技術シーズ等を講師のオーマイリーに紹介し、新規採用者およびのフォーマットでのシート集は、1月に本校ホームページにアップした。 ・12月に実施した静岡県東部カノン・リバーフロント沿岸高専等において、本校のほぼ全教員のシートをポスターセッションの形で参加企業等に開示した。	A S
⑤満足度調査において公開講座(小・中学校)に対する理研教育支援委員会の参加者の7割以上から評議されるように、地域の生涯学習等を通じて本校における公開講座を充実する。	⑤満足度調査について、引き続き各教員の研修等の内容に更なる柔軟性をもつてより柔軟に対応するなどして、引き続き静岡県東部カノン・リバーフロント沿岸高専等へ向けて実施する。 ・静岡県の認定講習の認可を受けた「富士山麓用機器開発エンジニア養成プログラム(F-meal)」を沼津高専特別講習として14名の社会人受講生に認定された。	⑤社会人対象の公開講座(小・中学校)について、引き続き専門学学科と教養科の全ての学科から1人座以上を実施し、技術者育成への取り組みを推進する。また、講座登録料、データベース及び内容についてより柔軟に対応するなどして、引き続き静岡県東部カノン・リバーフロント沿岸高専等へ向けて実施する。	⑤社会人対象の公開講座(小・中学校)について、引き続き専門学学科と教養科の全ての学科から1人座以上を実施し、技術者育成への取り組みを推進する。また、講座登録料、データベース及び内容についてより柔軟に対応するなどして、引き続き静岡県東部カノン・リバーフロント沿岸高専等へ向けて実施する。	⑤静岡県の認定講習の認可を受けた「富士山麓用機器開発エンジニア養成プログラム(F-meal)」を沼津高専特別講習として14名の社会人受講生に認定された。	A A
③国際交流等に関する事項 ①安全面への十分な配慮を払いつつ、学生や教員の海外交流を促進するため海外の教育機関との国際交流やインターンシップを推進する。 ②留学生の国際化(英語力の向上など)に向けた取組を推進する。	③国際交流等に関する事項 ①安全面への十分な配慮を払いつつ、学生や教員の海外交流を促進するため海外の教育機関との国際交流やインターンシップを推進する。 ②留学生の国際化(英語力の向上など)に向けた取組を推進する。	③国際交流等に関する事項 ①高等学校が主催する高等学校(農林水産省)による国際交流を促進するための取組(在外研究員、国際会議発表等)を推進する。 ・近隣高専等による教員クローク、レベル交換プログラム等の要件を満たした者に採用された。	③国際交流等に関する事項 ①高等学校が主催する高等学校(農林水産省)による国際交流を促進するための取組(在外研究員、国際会議発表等)を推進する。 ・近隣高専等による教員クローク、レベル交換プログラム等の要件を満たした者に採用された。	③国際交流等に関する事項 ①高等学校が主催する高等学校(農林水産省)による国際交流を促進するための取組(在外研究員、国際会議発表等)を推進する。 ・近隣高専等による教員クローク、レベル交換プログラム等の要件を満たした者に採用された。	A A
④留学生に対する研修旅行などの機会を毎年度提供する。 ⑤留学生に対して、我が国の歴史・文化・社会に興味のある研修旅行などを実施する。	④留学生に対する研修旅行などの機会を毎年度提供する。 ⑤留学生に対して、我が国の歴史・文化・社会に興味がある機会を毎年度提供する。	④留学生に対する研修旅行などを実施する。 ・留学生を対象とした研修旅行(スキーリゾート)の世話料として交流会を企画。	④留学生に対する研修旅行などを実施する。 ・留学生を対象とした研修旅行(スキーリゾート)の世話料として交流会を企画。	④留学生に対する研修旅行などを実施する。 ・留学生を対象とした研修旅行(スキーリゾート)の世話料として交流会を企画。	A B
④管理運営に関する事項 ①迅速かつ責任ある意思決定を実現するところに、戦略的かつ計画的な資源配分を行う。	④管理運営に関する事項 ①迅速かつ責任ある意思決定を実現するところに、戦略的かつ計画的な資源配分を行う。	④管理運営に関する事項 ①引き続き、アレンジメントによる効率的な配分を行う。 アレンジメントによる効率的な配分を行うと共に、学内設備整備マスターによる監修の計画的な配分を行う。 ・教育研究設備整備課室運営によりこれまで導入した設備に対する定期的な保守体制を整備することにより、本校の戦略的かつ計画的な資源配分を行う。	④管理運営に関する事項 ①引き続き、アレンジメントによる効率的な配分を行う。 アレンジメントによる効率的な配分を行うと共に、学内設備整備マスターによる監修の計画的な配分を行う。	④管理運営に関する事項 ①引き続き、アレンジメントによる効率的な配分を行う。 アレンジメントによる効率的な配分を行うと共に、学内設備整備マスターによる監修の計画的な配分を行う。	A B

第3期中期計画		平成26年度 年度計画		平成26年度 年度計画実施状況	
担当部署	担当者	担当部署	担当者	実施状況	自己評価点
②管理運営の在り方について、校長を中心とした年度計画の策定及び改善等において、運営基盤の見直しを反映すべく、構成された「業務改善システム」の適切な運用に努める。	校長	②平成26年度年度計画に対して、運営諮詢会議の委員から指摘された細部の事項について改善した。	A		
③効率的な運営に向けた年度計画の策定及び改善等において、運営基盤の見直しを反映すべく、構成された「業務改善システム」の適切な運用に努める。	事務部長	③出退勤システムにより教員の出退勤時間と抽出し、一覧表を作成してそれを基に、毎月開催される安全衛生委員会において過重労働撃退策を協議して委員長から校長に進言し、具体的に校長面談及び校長から直接メールによって休むよう勧告する等を実施した。昨年度実施した業務のスクラップについて、基幹して蓄積することにより効率的な運営を図った。また、その一環として、平成25年度に実施した「業務の改修等の期間を短くしたりすることにより効率化する」ということを審議する。行事の平日化やスキーリーフ等の実施に向けた最終的検討を行った。	B		
④本校の課題やリスクに対応し、組織一丸となつて、リスク管理システムを活用して、教職員の対応ができるよう、研修や倫理教育等を通じた全教職員の意識向上に取り組む。	事務部長	④あらゆるリスクに対するリスク管理マニュアルの確認と緊急時一斉通報システム等の関係機器の動作確認及び教職員の危機管理意識を促すために、2月(本)による二連絡テストを行い、テスト結果を全校教員に周知した。	A		
⑤機構本部からの監査や相互監査、内部監査等監査体制を強化するよう、研修や倫理教育等を通じた全教職員の意識向上に取り組む。	事務部長	⑤機構本部が行う監査や相互監査を積極的に受審するとともに、内部監査の実施強化を図る。また今後の校内内部監査のあり方を探討、推進していく。	A		
⑥平成23年度に策定された「公的研究費等に関する不正使用防止指針」の改定版を発行し、法人本部を中心として法人全体の監査体制に協力する。	事務部長	⑥引き続き、公的研究費の不正使用防止の観点からガバナンス上に沿った校内監査及び研修会を実施する。校内監査等の更なる充実強化を図る。	A		
⑦事務職員や技術職員の能力の向上に向けた研修会を開催するなどして、必要に応じ本部再構成を徹底する。	事務部長	⑦昨年度に引き続き、事務職員及び技術職員の能力向上を図るために、機構本部の不断の見直し、改定版の実施するなどして、法人本部を中心に実施する。	A		
⑧各年度と同様に企業研修として3週間程度の研修会を開催する。	事務部長	⑧昨年度に引き続き、事務職員及び技術職員の能力向上を図るために、機構本部の不断の見直し、改定版の実施するなどして、法人本部を中心に実施する。	A		
⑨業務運営及び技術職員について、国公立大学等の間や高等専門学校などの精神性の人材交流を図る。	事務部長	⑨平成27年3月の教育用計算機システムのリフレイティ(リフレイティ)法も最善になるよう検討を加える。	A		
⑩機構の中期計画のために必要な情報セキュリティと情報システムの特性に応じて改修して改善する。	校長、教務主幹 各学科長	⑩毎年の自己点検評価及び外側委員からの意見を踏まえた上で、本校独自の年度計画を策定する。また、各学科との「協定・講義・相談」を推進することで、各学科には、各学科においては学科会議をばほ問題で開催して、教員個々の勤務状態や意見を收集して学科運営に役立てると共に、学内の情報を速やかに伝達して、健全な学科の運営運営に取り組む。	A		

平成26年度 年度計画実施状況					
第3中期計画			平成26年度 年度計画		
II 業務運営の効率化に関する目標を達成する。 ① 引き続き、一般管理費（人件費相当額を除く。）については3%。その他は4%。その他の業務の効率化を図る。 ② 約翰に当たっては、原則として一般競争入札等によるものとし、競争入札を図る。 ③ 要約に当たっては、原則として一般競争入札等によるものとし、競争入札等によるものとし、競争性、透明性を確保する。 ④ 高等機構で実施する高専相互会計監査を受検する。 ⑤ 高等機構で実施する高専相互会計監査を受検する。	II 業務運営の効率化に関する目標を達成する目標を達成するために取るべき措置 ① 引き続き、一般管理費（人件費相当額を除く。）については3%。その他は4%。その他の業務の効率化を図る。 ② 約翰に当たっては、原則として一般競争入札等によるものとし、競争性、透明性を確保し、仕様策定において内容を慎重に検討し、複数メーカーが参入可能な仕様書を作成するようとした。 ③ 高等機構で実施する高専相互会計監査を受検し、概ね良好との結果であった。	担当部署 校長・事務部長	担当部署 校長・事務部長	II 業務運営の効率化に関する目標を達成するために取るべき措置 ① 一般管理費の削減の取り組みの一つとして、総務委員会においては、出張については、今年度より導入されたテレビ会議システムを利用してすることにより経費を削減するよう協力をお願いした。 ② 約翰に当たっては、原則として一般競争入札等によるものとし、競争性、透明性を担保し、仕様策定において内容を慎重に検討し、複数メーカーが参入可能な仕様書を作成するようとした。 ③ 高等機構で実施する高専相互会計監査を受検し、概ね良好との結果であった。	自己評価点 A
III 予算（八件費の見積もりを含む。）収支計画及び資金計画 及び資金計画	III 予算（八件費の見積もりを含む。）収支計画及び資金計画 引き続き、外部資金（共同研究、受託研究、奨学寄附金、科研費等）の獲得に積極的に取り組み、自己収入の増加に努めた。	担当部署 地域連携・研究支 援委員会	担当部署 地域連携・研究支 援委員会	II 業務運営の効率化に関する目標を達成するために取るべき措置 ① 一般管理費の削減の取り組みの一つとして、総務委員会においては、出張については、今年度より導入されたテレビ会議システムを利用してすることにより経費を削減するよう協力をお願いした。 ② 約翰に当たっては、原則として一般競争入札等によるものとし、競争性、透明性を担保し、仕様策定において内容を慎重に検討し、複数メーカーが参入可能な仕様書を作成するようとした。 ③ 高等機構で実施する高専相互会計監査を受検し、概ね良好との結果であった。	S
IV 短期借入金の限度額	IV 短期借入金の限度額 (該当無し)	担当部署 校長・事務部長	担当部署 校長・事務部長	III 予算（八件費の見積もりを含む。）収支計画及び資金計画 引き続き、外部資金（共同研究、受託研究、奨学寄附金、科研費等）の獲得に積極的に取り組み、自己収入の増加に努めた。	A
V 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計 画	V 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計 画 以下の土地を国庫に現物納付又は譲渡する計 画 香貫宿舎跡について、処分(売払い)又は賃貸本部等関係機関との協議が整 り次第、売払をする予定である。 ・沼津工業高等専門学校香貫園地(静岡県沼津市南本郷町14-27)…288.19m ²	担当部署 校長・事務部長	担当部署 校長・事務部長	IV 短期借入金の限度額 (該当無し)	A
V 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計 画	V 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計 画 香貫宿舎跡について、処分(売払い)又は賃貸本部等関係機関との協議が整 り次第、売払をする予定である。 ・沼津工業高等専門学校香貫園地(静岡県沼津市南本郷町14-27)…288.19m ²	担当部署 校長・事務部長	担当部署 校長・事務部長	V 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計 画 香貫宿舎跡について、処分(売払い)又は賃貸本部等関係機関との協議が整 り次第、売払をする予定である。 ・沼津工業高等専門学校香貫園地(静岡県沼津市南本郷町14-27)…288.19m ²	A
VI 剰余金の使途	VI 剰余金の使途	担当部署 校長・事務部長	担当部署 校長・事務部長	VI 剰余金の使途	A
VII その他の主務省令で定める業務運営に関する事項 する事項	VII その他の主務省令で定める業務運営に関する事項 する事項	担当部署 校長・事務部長	担当部署 校長・事務部長	VII その他の主務省令で定める業務運営に関する事項 する事項	A
VIII その他の主務省令で定める業務運営に関する事項 する事項	VIII その他の主務省令で定める業務運営に関する事項 する事項	担当部署 校長・事務部長	担当部署 校長・事務部長	VIII その他の主務省令で定める業務運営に関する事項 する事項	A
IX 人事に関する計画	IX 人事に関する計画	担当部署 施設整備計画委員会	担当部署 施設整備計画委員会	X 人事に関する計画	A
2 人事に関する事項	2 人事に関する事項	担当部署 校長・事務部長	担当部署 校長・事務部長	2 人事に関する事項	A
2 人事に関する計画	2 人事に関する計画	担当部署 校長・事務部長	担当部署 校長・事務部長	2 人事に関する事項	A
2 人事に関する事項	2 人事に関する事項	担当部署 校長・事務部長	担当部署 校長・事務部長	2 人事に関する事項	A

平成 26 年度 年度計画

評価シート

沼津工業高等専門学校 運営諮問会議委員

平成26年度 年度計画 自己点検評価 評価シート意見対応表

1. 教育に関する事項	学校側の対応等について（校長、副校長、3校長補佐及び該当の各委員会委員長等の意見）
<p>(1) 入学者の確保について (東郷委員)</p> <p>入学者確保のための種々の努力、取組がなされていると思う。学生の入試成績と学業成績の検証はどのような方法で行い、検証結果はどのようにになっているか？志願者が減っているようであるが、受験倍率の推移はどうか？</p> <p>(若原委員)</p> <p>入学者の確保については、十分に計画を達成していると判断されます。</p> <p>女子学生確保の努力については、短期では成果が出ない課題でもあり、継続して取り組まれていることが重要と考えます。</p> <p>(三津濱委員)</p> <p>中学生向けの入学体験等：更に、他高専/高校（沼津東高等）とのベンチマークも行つては ものづくりに関心と適性を有する者など高専にふさわしい人材を選抜：具体的な選抜方法が見えない。内申点と筆記試験だけでなく、面接等があるのか？</p> <p>(真崎委員)</p> <p>オープンキャンパスや校長自らが校長会を訪問するなど、継続して様々な取り組みをされており、高く評価できると思います。一方で前年度と比較して志願者が69名も減少しており、気になる点です。今後も少子高齢化に伴いますます学生の確保が難しくなるため、県中西部、県外からも幅広く学生を集める工夫をお願いしたいと思います。</p> <p>(工藤委員)</p> <p>校長が積極的に中学校を訪問したことは高く評価できる。中学校に対するインパクトは大きいと思う。</p> <p>(村松委員)</p> <p>(優秀な学生の確保との観点から) 校長自らの行動、教員による127校の訪問は、多忙な時間を割いての事であり高く評価できると思います。が、志願者数で前年より減少している要因を分析し対策を願いたいと考えます。</p>	<p>（担当部署）</p> <p>○アドミッション委員会（校長、副校長）</p> <p>学力試験の結果、内申点などと入学後1年が経過した1年の学年末試験成績との相関を調べております。弱い相関がみられるのは、中学校での内申点と学年末成績です。他の因子間では有意な相関は見られませんでした。</p> <p>ご指摘の通り、平成24年度以降、志願倍率の低下傾向が続いています。平成24年度の1.95倍が平成27年度は1.49倍でした。</p> <p>若原委員に答えて（副校長）</p> <p>入学者確保については、定員は確保しておりますが、志願倍率の低下が続いていることから、原因の探索とそれへの対応を行ってまいります。継続して入試広報活動を展開致します。</p> <p>女子学生確保に向け、生き生きした女子学生を中心としたリーフレットを作成するなど、引き続き女子学生確保に努力致します。</p> <p>三津濱委員に答えて（副校長）</p> <p>ご指摘、有難うございました。他高専の状況は調べましたが、高校については調査しておりませんでした。調べて検討致します。</p> <p>推薦入試の適性試験では、ものづくり（技術）への興味や関心を問う設問があり、これを指標としています。</p> <p>真崎委員に答えて（副校長）</p> <p>ご指摘の通り69名の志願者減は深刻な問題と考えております。その原因として考えられる点について、早急に対応策をとってまいります。また、ご指摘のように、県西部や県外からの受験者増につながる対応策を検討し、対応策をたて、早急な実行を進めます。</p>

<p>(鈴木委員)</p> <p>種々の方法で確保に向け、講じられていると感じます。また、中学校に対する施策に平行して具体的な最寄地受験制度は大いに検討していかなければと思います。</p>	<p>(鈴木委員に答えて)</p> <p>平成28年実施の学力試験からマークシート方式が導入されます。これは、最寄地受験に好材料です。他高専とも連携し、検討を進めます。</p>
<p>(2) 教育課程の編成等について</p> <p>(東郷委員)</p> <p>平成24年度からスタートした新教育課程が順調に進められていると思う。</p> <p>GPAと学生授業アンケートによる教育課程改善の具体例は?</p> <p>学習到達度自己評価による教育課程改善の具体例は?</p>	<p>〈各担当部署〉</p> <p>○教務委員会(教務主事) ○学生委員会(学生主事) ○専攻科長(校長補佐) ○学際教育()</p> <p>学習到達度の結果、物理は参加した6課題のうち一つが全国1位、他は20位以上。数学は参加した8分野中2分野が全国2位、他の分野も6位以内でした。これらの結果について、今後の授業改善に向け、教養科教員と専門教員との意見交換会を3月に実施しました。</p>
<p>(若原委員)</p> <p>教育課程の再編を計画通り実施することに加えて、JSTの「富士山麓医用機器開発エンジニア養成プログラム」の終了後の定着事業も順調であるなど、計画以上の成果が得られている点は高く評価される。</p> <p>④で掲げられている学内プロコンについては、実施状況に記述がありませんので、計画の一部が未実施との判断になります。実施された状況があれば記述して下さい。</p>	<p>若原委員に答えて(副校长)</p> <p>学内プロコンとしては、今年度(H26年度)は前の年度の反省を踏まえ、Robocodeのロボットバトルをテーマとしました。しかし、参加者不足にて開催出来ませんでした。ネット上に公開されたプログラムを剽窃してくるのを防ぐために、一般的なRobocodeとは異なる条件設定になったことが、学生にとって魅力に映らなかった原因の一つと考えられます。</p>
<p>(三津濱委員)</p> <p>理系(数学、物理)の学力を伸ばすための教育改善:更に、実験・ミニ研究の場での活用を</p> <p>ボランティア活動などの社会奉仕体験活動:更に、市と企業の共同活動(「ぬまづまちピカ応援隊」等)へ参加しては</p>	<p>三津濱委員への回答(学生主事)</p> <p>沼津市や長泉町等からのボランティア募集等には、学生会を中心に極力お応えするよう指導していますが、市と企業の共同活動(「ぬまづまちピカ応援隊」等)については存じ上げておりません。ご案内を頂ければ、検討いたします。</p>
<p>(真崎委員)</p> <p>混合学級、ミニ研究、学際教育は非常に魅力的な取り組みだと思いますが、よりPRの方法を工夫し、その意義や専門学科との関連を分かり易く伝えて欲しいと思います。また、3年生に対し、学際教育を開始していますが、分野選択の状況や授業実施環境など、改善すべき点があれば教えていただきたいと思います。</p>	<p>真崎委員に答えて(副校长)</p> <p>新教育課程について、広報に努めます。具体的には、新課程で取り組むミニ研究発表会などのイベントを事前に新聞社にお知らせし、取材にご来校頂けるよう働きかけを行います。</p>
<p>(工藤委員)</p> <p>柔軟な教育課程であり、一人一人の学生の良い点を伸ばそうという理念を感じる。</p>	<p>3年生に実施した学際教育のグループ分けは、Moodleを利用することにより、ほぼ三等分されました。いずれの授業も好評(授業アンケートによる)でした。改善を要する点は、使用した3つの教室のうち1つの教室が縦長であり、後ろの学生が聴講しにくい点でした。</p>
<p>(山田委員)</p> <p>21世紀に生きる力として、中学校でも、思考・判断・表現力が重視されています。ものづくりの技術力だけではなくて国際社会でも通用できる表現力を高専でもさらに重視して頂きたい。</p>	<p>山田委員に答えて(副校长)</p> <p>ご指摘の「国際社会でも適用できる表現力」育成につながると考えられる本校の取り組みには、次のようなものがあります。</p> <p>ネイティブ教師による専門の授業、海外(英語圏)での経験豊富な教員(教養、専門いずれも)の採用。専門教員の長期にわたる英語研修。専攻科学生の海外インターンシップ、国際会議での発表です。</p> <p>今後とも、「国際社会でも適用できる表現力」育成に努めます。</p>

<p>(村松委員) 前年もコメントしたことですが「TOEIC を全学生に受けさせた」で「A」評価は甘すぎると判断します。具体的な到達レベル (ex. 550 点) を予め設定してそのための具体策と成果に対し評価すべきと考えます。</p>	<p>村松委員に答えて (副校长) ご指摘の点、強く認識し、改善に努めます。</p>
<p>(鈴木委員) 専攻科の評価は、今後、企業・大学にとって気になる存在になって行くと思います。定員の増加は難しいと思われますが、各高専の受検者も確保し良い人材を受け入れていくことを期待します。</p>	<p>鈴木委員に答えて (副校长) 専攻科修了生の企業、大学院での評価は総じて高く、これを反映し、進学、就職でも良好な進路を確保しています。これらを武器に、専攻科生確保に努めます。</p>
<p>(3) 優れた教員の確保について (東郷委員) 優れた教員の採用と在職教員の育成が行われていると思う。専門科目教員の 70%以上が博士の学位、一般科目教員の 80%以上が修士以上の学位を有するという目標は達成されているか?</p>	<p>東郷委員に答えて (副校长) 現在、専門科目教員で博士の学位を有する教員が 81%、教養科で修士以上の学位を有する教員が 84%であり、いずれも目標も達成しております。 今後とも、教員の質の向上に努めます。</p>
<p>(若原委員) これまでの実績を踏まえ、企画された計画を確実に実施しており、十分に計画を達成していると判断されます。</p>	<p>三津濱委員に答えて (副校长) 平成 26 年度、新たに 1 名の女性教員を採用致しました。これで、全教員に占める女性教員の割合は 10.8 % (9名)となりました。</p>
<p>(三津濱委員) 女性教員の採用を優先： 女性教職員の増化が更に開かれた高専へのとなるキーとなる。また、地域の技術拠点として、優秀な女性研究者の仕事の場となることを期待 ・・・昨年と同じ</p>	<p>真崎委員に答えて (副校长) 平成 26 年度、新たに 1 名の女性教員を採用致しました。これで、全教員に占める女性教員の割合は 10.8 % (9名)となりました。引き続き、優秀な女性教員の採用に努めます。</p>
<p>(真崎委員) 教員相互の授業参観は良い取り組みだと思います。また長期的に入学者を確保していく上で、女子学生の確保は欠かせないと思いますが、そのために優秀な女性教職員の採用目標人數の設定、積極的採用をお願いします。</p>	
<p>(山田委員) 生地研に学生主事補を派遣していることは、横との連携の意味からも意義あるものと考えます。</p>	
<p>(村松委員) 女性教員の働きやすい環境の整備に努めた。と記述されていますが、具体的に実施したことの説明がありませんので、改めて説明ください。</p>	<p>鈴木委員に答えて (副校长) 教員の学生とのコミュニケーション能力については、採用時に実施する模擬授業や 2 回の面接試験で調べさせていただいております。</p>
<p>(鈴木委員) 教員の質の中で、生徒とのコミュニケーション能力は、かなりの比重を占めるものと。採用には充分注意していかなければならぬと思います。</p>	

<p>(4) 教育の質の向上及び改善のためのシステムについて (東郷委員)</p> <p>教育の質の向上、改善に向けて、種々のフォーラム、シンポジウム等への参加や、他高専、他大学、企業へのインターンシップなど取組みがなされていると思う。</p> <p>学生のキャリア教育、就職支援の取り組みも充実していると思う。</p>	<p>〈担当部署〉</p> <p>○校長、副校長、各校長補佐 東郷委員に答えて（副校长）</p> <p>高専機構本部をはじめ様々な機関が開催出研修会に積極的に出席してまいりました。1名の教員については、1年間民間企業にて研修を受けてまいりました。</p>
<p>（若原委員）</p> <p>全体的には、十分計画を達成していると判断されますが、②の計画で掲げられている以下の計画についての実施状況の記述が見られません。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学際分野（環境エネルギー、新機能材料、医療福祉）教育の円滑な運営に努める。」 →実施教科があれば追記して下さい。 ・「平成26年度から「シラバス」を本科・専攻科で統一し、「ポートフォリオ」を積極的に活用することとした。これを確実なものにするため、「学習・教育目標」と「実践指針」が社会からの要請に応えたものになっているか、「ループリック」と「シラバス」がこの学習・教育目標と実践指針を着実に達成できる仕組みになっているか、「ポートフォリオ」による自己点検が確実に実施され、学生が意欲的に学ぶ仕組みになっているかについてのPDCAを着実に実行する。」 →この部分について、計画では「PDCAを着実に実行する」と有りますが、実施状況では、「ループリックの作成準備を進めた」となっています。PDCAを着実に実施した実績があれば明示的に記述して下さい。 <p>上記2点が自己評価案のままで計画の一部が未達成と判断され、B評価とするのが妥当と思われます。A判定と判断した根拠を明示的に示して下さい。</p>	<p>若原委員に答えて（副校长）</p> <p>平成26年度、3年生に開講した学際科目は以下の通りです。</p> <p>環境・エネルギー分野：エネルギー変換工学Ⅰ（前期） エネルギー変換工学Ⅱ（後期） 新機能材料分野：材料科学基礎Ⅰ（前期） 材料科学基礎Ⅱ（御期） 医療・福祉分野：基礎生理学（前期） 医用工学基礎Ⅰ（後期）</p> <p>専攻科長が加わり定期的に開催した教務小委員会にて、専攻科とJABEに関わる4、5年授業の「ループリック」作成に向け検討を重ねました。これら授業評価、達成度評価に関する見直しと修正は、専攻科運営委員会と教務小委員会とで定期的に見直しを行ってきたことから「A」評価とさせて頂きました。</p>
<p>（三津浜委員）</p> <p>英語：とにかく、英語によるコミュニケーションの場作り</p> <p>（真崎委員）</p> <p>企業との共同教育は非常に良い取り組みだと思います。特に、それぞれの業界における現状と将来展望の情報提供は学生にとっても将来の進路選択に大いに役立つと思います。ただ、こうした共同研究は、地元静岡県内企業に限定する必要は無いと思います。沼津は首都圏にも近いので、県外の優良企業等も対象にしてはいかがでしょうか。</p>	<p>三津浜委員に答えて（副校长）</p> <p>英語科の教員を中心に、ご指摘の「コミュニケーションの場作り」に授業の中や集中講義などを設け今後も努力を続けます。</p> <p>真崎委員に答えて（副校长）</p> <p>共同研究を通じた企業との共同教育は、地元企業を中心ですが、首都圏、近畿圏の大企業との間でも活発に行われております。</p> <p>真崎委員への回答（テクノセンター長）</p> <p>本校と企業との共同研究は、地域連携を中心に行ってはおりますが、県外の企業とも行っています。過去5年間の共同研究の件数のうち、約60%が県内の企業と、残りの40%は県外の企業との案件になっています。</p>
<p>（山田委員）</p> <p>教育の質的向上のため、高度な研修体制がうかがえます。</p> <p>（村松委員）</p> <p>ポートフォリオの活用の徹底化を進めた結果、実際にどの様な効果が出てきているのか、検証はどの様な方法で行っているのか説明ください。</p>	<p>村松委員に答えて（副校长）</p> <p>年度はじめの決意、目標、試験の答案などをファイルに1とじる担任を通じて指導を行っていますが、その利活用については把握していないのが現状です。次年度、教務委員、専攻科運営委員を中心にこの課題に取り組みます。</p>

<p>(鈴木委員)</p> <p>インターンシップはとても評価でき、さらなる充実が進められるよう期待します。</p> <p>グローバルな考え方を持てる人材育成のための実務研修、留学等の機会が増えるよう望みます。</p>	<p>鈴木委員に答えて（副校长）</p> <p>4年生に対しては、就職を考える学生はすべて、進学を希望する学生にも勧めております。専攻科1年生の4か月に及ぶ長期インターンシップは必修です。</p> <p>機構本部や岐阜高専などが斡旋する海外インターンシップにも毎年、複数の学生が参加するようになってきました。</p>
<p>(5) 学生支援・生活支援等について</p> <p>(東郷委員)</p> <p>学生支援・生活支援は、学生生活支援室主導で行われている。 Q-Uテストからのアウトプットはどうか？</p> <p>(若原委員)</p> <p>十分計画を達成していると判断されます。</p>	<p>〈担当部署〉</p> <p>○学生委員会（学生主事） ○寮務委員会（寮務主事） ○図書委員会（図書館長）</p> <p>東郷委員への回答（学生主事）</p> <p>Q-Uテストの結果については、各担任による学生指導の判断材料の一つとして利用していますが、それとは別に、学校としては平成25年度以来、本校検査結果を他高専の検査結果と比較し、本校学生の気質や特徴を客観的に把握することで、より実効性のある検査にするため、Q-U解析の専門家である奈良高専准教授の石丸裕士先生に解析をお願いし、その解析結果を教員FDにおいて全教員にフィードバックしています。</p>
<p>(真崎委員)</p> <p>キャリア教育は、就職に役立つような各業界情報の提供だけではなく、優秀な技術者として成功していく要件（国際感覚や指導力、コミュニケーション能力等）を伝えていくことが大切だと思います。そこで大手企業の技師長クラスを講師に、キャリア開発講義をお願いし、自身の成功要因を学生に伝えるような場を設けてはいかがでしょうか。</p> <p>(工藤委員)</p> <p>寄宿舎での生活は今の若者には貴重な経験であり、大切にして欲しい。</p>	<p>真崎委員への回答（学生主事）</p> <p>「Futureしづおか」の講師を務めてくださる地元中小企業の社長様ほかのお話も十分迫力がありますが、ご指摘のように、大手企業の技師長クラスの方々のお話も参考になると存じますので、今後の検討課題といたします。なお、平成27年度の文化講演会では、本校OBの本田技研株式会社取締役専務執行役員の山本芳春様にご講演頂きます。きっとご自身の成功要因を学生に伝えてくださるものと存じます。</p>
<p>(村松委員)</p> <p>昨年9月に極めて痛ましい事件が寮で起きた。と公表されました。これは学生のメンタルヘルスケアの更なる重要性を示しているものと思われます。強力な施策の実行を切に要望します。又、キャリア教育（低学年からの）の実施成果はどの様に出て来ると考えますか？</p> <p>(鈴木委員)</p> <p>寮生活があるなど、ある意味特殊な学校形態の中で、手厚い指導に感謝します。</p> <p>人とのコミュニケーションの苦手な学生を、少しでも自分の考えを気軽に話せるような機会を与えられたらと考えます。</p>	<p>村松委員への回答（学生主事）</p> <p>平成25年度から1、2年生で実施しているキャリア教育「Futureしづおか」についての学生の感想文を見ると、大変高い評価が出ています。同様に「就職祭」も学生から高い評価を得ています。キャリア教育の成果は着実に上がっていくものと存じます。</p>
<p>(6) 教育環境の整備・活用について</p> <p>(東郷委員)</p> <p>キャンパスマスターplanの再構築における大きな変更は何か？</p> <p>節電の取組みにより4.6%減の節電効果は評価できる。</p> <p>大型設備の運用状況（利用状況と維持管理費用）はどうか？</p>	<p>〈担当部署〉</p> <p>○施設整備計画委員会（校長） ○安全衛生委員会（副校长） ○事務部（事務部長）</p>

<p>(若原委員) 十分計画を達成していると判断されます。</p> <p>(三津濱委員) 職場の労働環境：教職員の働きをどう評価するに当たり、労働時間・休暇の管理は最低限でのものである。実りある職場とは、について議論を深めて欲しい。それが魅力ある学校、更に、生徒の学習・研究・クラブ活動等の意欲に繋がる</p> <p>(真崎委員) 過重労働の教職員に関しては、休養だけではなく医師・保健師による面談、ストレスチェックの検討お願いします。また、企業における36協定のようなものはあるのでしょうか？</p> <p>(鈴木委員) 種々の大型設備があり、その有効活用がたいへん重要になってきます。いかに効率よく内外部で利用できるかが鍵となると思います。</p>	<p>三津濱委員に答えて（副校长） 安全衛生委員会を中心に、勤務時間、休暇取得状況の把握を行っておりますが、改善につながっていないのが実情です。ご指摘の点、産業医など外部の方々のご指導も頂きながら改善に努めます。</p> <p>真崎委員に答えて（副校长） ご指摘の通り、ハイリスクの教員については産業医による面談を行っております。 本校には三六協定はございません。</p> <p>鈴木委員に答えて（副校长） 大型設備については、管理担当者を置く、利用説明会を行うなど利用拡大に向けた努力を行っています。</p>
--	---

2. 研究や社会連携に関する事項	学校側の対応等について
<p>(東郷委員) 科研費、技術科学大学との共同研究など研究費の競争的資金の確保に向けた努力・取組みが行われていると思う。</p> <p>(若原委員) 計画③に記載の大学との連携についての実施状況の記述が見られません。 計画④がS判定と判断した根拠がわかりにくい。現状の実施状況の記述だと、計画を実施したことで「S」判定と判断したように見えるので、これまでのシーズ開示率に対するH26年度の実績など、根拠を示す必要があるように思われます。</p>	<p>〈担当部署〉 ○地域連携・研究支援委員会（テクノセンター長）</p> <p>若原委員への回答（テクノセンター長） 計画③に関して、東京工業大学、静岡大学等の大学教員と本校教員との共同研究は、これまでにも個々には行われてきました。それに加え、2つの技術科学大学との共同研究事業において、平成25年度は12件、平成26年度も8件の共同研究が実施されました。 計画④に関して、2年前に作製したシーズ集における教員シーズの開示率は91%であったのに対し、現在WEBで公開しているシーズ集の開示率は、新人教員が2名掲載に間に合っていない状況でも95%に改善されました。</p>
<p>(三津濱委員) 沼津高専の研究・社会連携による社会貢献を、生徒はどのくらい理解しているのだろうか。発明の意義を含め、しっかりと伝えることが将来、技術者になるモティベーションになると考える</p> <p>(真崎委員) 研究や社会連携、産学連携活動に関する取り組みは、多方面に渡り大きな成果を上げており、極めて高く評価できるのではないかと思います。</p> <p>(工藤委員) マスコミ等でよくニュースになっており、素晴らしい。</p>	<p>三津濱委員への回答（テクノセンター長） 沼津高専の研究・社会連携による社会貢献を、本校の学生に理解させる機会としては、本校で実施し学生が自由に参加できる「静岡県東部テクノフォーラムin沼津高専」があり、専攻科の学生を中心に参加しています。また、平成27年度からの実施になりますが、全4年生の必修科目として「社会と工学」が始まり、地域企業の課題の解決策を学生が考案することを体験することになります。これにより、学生は自分の学習内容が技術者としての将来の実務にどのように関係するのかについて、体験することになります。専攻科に進む学生は、その後さらに、専攻科1年生で4ヶ月間の長期インターンシップを体験することになります。専攻科1年生の長期インターンシップは、平成26年度から実施しています。</p>

<p>(山田委員) 沼津にある高専と沼津の義務教育界とのさらなる連携をはかる必要性を感じています。それが地元の活性化、地方更生の一端になれば素晴らしいことだと考えます。</p> <p>(村松委員) 高専の特徴のPR、将来への布石、などのためにも地域連携、社会連携は益々重要と考えます。キメ細かな施策と実行をお願いします。</p> <p>(鈴木委員) 学校内での成果のみならず、研究中の内容の外部への広報の必要性は感じます。また、中学校への出前授業はたいへん有意義であり、種々の効果も期待できると思います。</p>	<p>鈴木委員への回答（テクノセンター長） 研究中の案件につきましては、知財の問題のないものに限り、広報に載せることは可能と思います。すでに、支障のない範囲で、共同研究等のテーマをホームページで公開しています。</p>
--	---

3. 国際交流に関する事項	学校側の対応等について
<p>(東郷委員) 国際交流に関しては、学生の海外インターンシップ、海外派遣学生への支援、教員の海外研修が進められており、一層の参加者の増加が望まれる。また、留学生に対する支援も行われている。</p> <p>(若原委員) 一部計画が未達成のものもあるが、天候などの不可抗力によることが示されており、十分計画を達成していると判断されます。</p> <p>(三津濱委員) オープンソース等、グローバルなコミュニティへの参加促進を期待 ・・・昨年と同じ</p> <p>(真崎委員) 様々な国際交流事業への参画、国際交流基金の活用など、多方面に渡り国際交流を進めており、高く評価できると思います。今後も講義の一部を英語化するなど継続して取り組みをお願いします。企業の海外展開が加速しているので、TOEICのスコア改善など、英語の実力を身につけさせて下さい。</p> <p>(工藤委員) これからの中学生には視野を広げるためにも、今後より一層国際交流に努めてもらいたい。</p> <p>(村松委員) 国際交流基金を最大限活用し、更なる活動を期待します。と同時に同窓会への報告もタイミングよく実施してください。</p>	<p>〈担当部署〉 ○地域連携・研究支援委員会（テクノセンター長） ○各校長補佐</p> <p>三津濱委員への回答（テクノセンター長） オープンソース等、グローバルなコミュニティへの参加については、各教員の研究分野やテーマによっては難しい場合があります。しかし、共同研究を含む外部からの研究助成の情報は常に教員に提供されており、外部との共同研究を推奨しています。今後、このような形態による研究の実績について、把握するようにしたいと思います。</p>

(鈴木委員) グローバルな時代、国際交流に対する要望は日々増しています。計画実施の内容はスケジュールに従い進められています。更なる成果を期待して止みません。	
---	--

4. 管理運営に関する事項	学校側の対応等について
(東郷委員) 校長のリーダーシップによる資源配分や外部（運営諮問会議委員）の意見も取り入れて改善を行っていると思う。	〈担当部署〉 ○校長、事務部長、技術室長
(若原委員) 一部計画に、検討の結果実施を見送ったものがありますが、計画段階で予め予想されるものについては、A評価とするには次年度以降の実施を目指して次善の策を検討したことなどが示される必要があると思います。	若原委員への回答（技術室長） 技術室については、技術室独自の研修を当初企画したもの、業務・日程の点で実施に至らなかった。しかし、高専機構主催の研修会、技能講習会には技術職員を参加させており、全体としては研修の場を提供することができたと考えている。今年度以降は高専機構主催の研修会・技能講習会での研修を中心に参加することとした。
(三津濱委員) 兎に角忙しそう、本業でない業務が多いのではないか。クラウドを含めたアウトソーシングの活用を高専機構と議論しては	
(真崎委員) 危機管理に関して、企業ではパワハラ・セクハラ対策が大きな課題となっています。教職員に対する教育を検討お願いしたいと思います。また、巨大地震発生後に備えた非常電源の確保、非常用備品、非常食の確保もお願いしたいと思います。	
(鈴木委員) 計画に従い、取り組まれており、順調に進められていると思います。どの組織でもそうですが、健康管理には充分留意され学校運営に努めていただきたいと思います。	

<p>5. 総合所感（本校の教育研究・運営体制等全般に関して、どのような事でも構いませんので、ご自由にご記入ください）</p>	<p>学校側の対応等について</p>
<p>(東郷委員)</p> <p>平成26年度の年度計画実施状況を拝見して、年度計画は、全般的に、校長のリーダーシップの下、順調に実施されていると思う。前年もコメントさせていただいたが、教育機関としての高専の役割は、まず、学生を受け入れて有為な人材に育成し社会に送り出すことであり、良い学生を入学させるための種々の取組み、学生を育成するための教育プログラムの改善、社会連携、国際交流、研究開発、送り出すための学生支援が年度計画として設定されていると思う。これらの計画の実施状況を学生の目線から見てみる必要もあるのではないかと思う。</p> <p>志願者が減っている状況は気になった。受験倍率の推移等、就職率の推移等のデータを見て、問題なければよいが、検討が必要かもしれない。</p> <p>自己点検評価表からは、総じて順調に進められているよう見えるが、実態が見えない感がある。具体的には進める上で、色々と課題があるのではないかと思う。そのあたりを聞かせて頂きたい。</p>	<p>〈担当部署〉</p> <p>○校長、副校長、校長補佐 ○各委員会委員長 東郷委員に答えて（副校长）</p> <p>平成26年度においては志願者減が最も重要な課題の一つと認識しております。その原因として、留年・退学者の問題があります。平成26年度の留年者数は33名（昨年度と比較し15名の増）、退学者数は16名（昨年度と比較し7名の減）でした。高校では、留年・退学がほぼゼロであるのに対し、本校の数字は中学生から見ると脅威に映るものと考えられます。</p> <p>平成27年度、この問題の解決に取り組みます。</p> <p>東郷委員への回答（テクノセンター長）</p> <p>「2. 研究や社会連携に関する事項」の三津濱委員への回答と同じです。</p>
<p>(若原委員)</p> <p>全体的には、膨大な計画を単にこなすだけではなく、実質化されるように取り組まれていることが分かります。</p> <p>教職員の負担軽減も考慮してバランス良く改革を進めておられ、この計画を継続することで教育面と研究面で良い成果が上がることを期待しています。</p>	<p>若原委員に答えて（副校长）</p> <p>先生のご評価に違わぬよう、健全な学校運営に尽力致します。</p>
<p>(三津濱委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校相当の年齢から理工系研究を行う高専教育は、実践的エンジニア育成に適しており、学生数拡大を期待・・・昨年と同じ ・一方、多感な時期であり、文化系の知識も吸収できるよう、読書の機会等、考慮をお願いする。文章力はエンジニアにも必須のものであり、文化に対する理解はグローバルコミュニケーションで必須 ・・・・昨年と同じ ・理系（数学・物理）の知識・思考は工学を論理化するための基本。実験・研究の実践と共に重視していただきたい <p>上記は、企業は「先端技術を製品・サービスに取り込み差別化→汎用化することで販売量拡大→次世代製品・サービスの芽を模索」のサイクルを繰り返す。従って、今の先端技術を習得した技術者は即戦力とは見るが、中長期には論理思考と柔軟性を併せ持つ実践的な人材をリーダーとして求めていることによる</p>	<p>三津濱委員に答えて（副校长）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単に理工系教育のみならず、文科系の知識、教養の要請にも努めるべく、朝の読書活動や観劇会の実施などを行っております。ご指摘の点についても考慮した教育を行ってまいります。 ・即戦力ばかりでなく、独創性、創造性を兼ね備えたエンジニアの養成には、実践的な課題に向かう開発研究が有効と考えますが、この教育ができるのが「高専教育」と感じております。 <p>今後とも、社会で求められる有意な人材育成に努力してまいります。</p>
<p>(真崎委員)</p> <p>沼津高専は時代の要請、時代の変化に対応した改革に積極的に取り組んでおり、進化のスピードは素晴らしい感じています。今後も少子高齢化、企業のグローバル化等に対応した改</p>	<p>真崎委員に答えて（副校长）</p> <p>委員ご指摘の通りと感じます。高専を支える教職員が次代が求める高専の姿を早急に検討しなければならないと考えます。</p>

革を進めていただきたいと思います。一方で、企業側として感じていることを述べさせていただきます。弊社では一定の枠を設け高専卒業生を毎年採用しています。しかしながら、高専卒業生の半数以上が大学や専攻科に進学している状況を見ますと、一定レベル以上の学生は進学を選択しているのではないかと想像します。高専が優秀な実践的技術者育成の場なのか、あるいは大学編入のための予備校と化していくのか、これから在り方について中途半端な感がぬぐえません。現在は高専卒者の就職状況はすばらしいのですが、将来的に高専卒業者を採用するスタンスが企業として不明確になってしまうのではないかでしょうか。理系は工学系を中心に、今では修士（あるいは博士前期課程）修了が普通になってきておりますので、こうした状況の中、10年、20年先を見据えて高専の在り方を有識者だけでなく、産業界も巻き込んで検討いただきたいと思います。

（工藤委員）

校長のリーダーシップのもと、沼津高専は確実に成果を出してあります。沼津の高等教育機関として、誇りであり、今後の益々の発展を願っています。

（山田委員）

学生の自主独立を前提とした教育研究や運営体制が報告書から伺え、頼もしく感じたところです。高等専門学校という5年間の教育の意義を失うことのないよう、中学生を預かる立場としては、時に編入学前提で入学を考える生徒がいますが、あくまでも5年間の高等専門学校ならではの教育を推進して欲しいと願います。

（村松委員）

- ・毎年度の事ながら、計画の項目が多く、沼津高専の抱える重点課題は何なのか？依然としてよく分かりません。
- ・〇〇〇をやります。〇〇〇の強化に努めます。充実させます。的抽象的な内容が多く、やりました。整えました…的な成果報告になっている様な評価ですが、もっと数値化する計画と達成度で評価すべきと考えます。
- ・要点を絞り、課題を「見える化」する様にお願いしたい事と、次年度への課題が明確に記述される様に願います。
- ・各項目毎の各々の担当部門の方々の努力の状況は良く分かり、敬意を表したいと思います。

（鈴木委員）

種々の目標、課題を抱えご苦労が多いと思います。必要性は大いに認めますが、多種多様で私としては、焦点が絞りにくいように感じました。早急性からの優先度を考慮して、それに沿い計画表を作成し、場合によっては、来年度と言う表現でも良いかと。

少子化、入学希望者の確保のためにも、受験生の全国一の私立大学、就職率100%で人気の国立地方大学などへの調査研究など、今後、差別化を意識していくなければならないと、切に感じます。

えます。その際に重要なのは産業界との連携と存じます。

産業界の強い要請と支持と支援が頂ける学校にする必要があるものと存じます。

今後とも、ご支援の程、よろしくお願ひ申し上げます。

工藤委員に答えて（副校长）

ご評価、ご指摘有難うございました。地域に愛される、必要とされる学校づくりに邁進致します。

今後とも、ご指導ご支援の程、よろしくお願ひ申し上げます。

山田委員に答えて（副校长）

ご指摘の通りと存じます。基本は5年間の高専教育です。

村松委員に答えて（副校长）

目標の数値化、抽象的記述を改めるなど、ご指摘有難うございました。重点課題についてもより明確とします。

次年度の自己点検評価では改善致します。

有難うございました。

鈴木委員に答えて（副校长）

重点課題、優先順位の明確化、次年度の自己点検評価では改善致します。

志願者確保については、緊急の課題と捉えております。その原因の調査、対応策の立案、実行、早急に取り組みます。

沼津工業高等専門学校
平成 27 年度 年度計画

第3期中期目標 / 中期計画 / 平成27事業年度 年度計画

中期計画		平成27年度 年度計画
<p>① インターネットなどを活用したICT活用教育の取組を充実させる。</p> <p>② 寄宿舎などの学生支援施設の計画的な整備を図る。</p> <p>③ 教職員の研修会議などによる職場実習による実践的研修を実施する。</p> <p>④ 学生会議、生活委員会、各部会等による活動を通じて、学生の主体性を育む。</p> <p>⑤ 学生会議、生活委員会、各部会等による活動を通じて、学生の主体性を育む。</p> <p>⑥ 学生会議、生活委員会、各部会等による活動を通じて、学生の主体性を育む。</p>	<p>① 高見澤学長の持つ「ともに」、「力を活用した教科や教養科目の実験を実施する」とともに、ICTを活用した教科や教養科目を実施する。 例として、各教科で用意して相応の実験を行なう教科の校内ネットワークを構築する。 また、ICTを活用して相応の実験を行なう教科の校内ネットワークを構築する。 ② 各教科の寄宿舎をはじめとする施設の活用により、経済性を高め、効率化を行なう。 ③ 基本的な研修会議を実施する。</p> <p>④ 生徒の手本として、専門分野の実習を通じて、学生に対する指導を充実する。</p> <p>⑤ 生徒会議、生活委員会、各部会等による活動を通じて、学生に対する指導を充実する。</p> <p>⑥ 生徒会議、生活委員会、各部会等による活動を通じて、学生に対する指導を充実する。</p>	<p>① 高見澤学長の持つ「ともに」、「力を活用した教科や教養科目の実験を実施する」とともに、ICTを活用した教科や教養科目の実験を実施する。 例として、各教科で用意して相応の実験を行なう教科の校内ネットワークを構築する。 また、ICTを活用して相応の実験を行なう教科の校内ネットワークを構築する。</p> <p>② 各教科の寄宿舎をはじめとする施設の活用により、経済性を高め、効率化を行なう。 ③ 基本的な研修会議を実施する。</p> <p>④ 生徒の手本として、専門分野の実習を通じて、学生に対する指導を充実する。</p> <p>⑤ 生徒会議、生活委員会、各部会等による活動を通じて、学生に対する指導を充実する。</p> <p>⑥ 生徒会議、生活委員会、各部会等による活動を通じて、学生に対する指導を充実する。</p>
<p>⑦ 既存の施設、設備などを活用して、学生に対する指導を充実する。</p> <p>⑧ 生徒会議などの学生支援施設の整備を行う。</p> <p>⑨ 生徒の適性・能力の発揮と、個々の進路選択のため、企業研修、実習、地域連携による実習、各種の見学会などを含めたキャリア教育を行なう。</p> <p>⑩ 学生会議などの団体の活性化や組織体制の強化を行なう。</p> <p>⑪ 給食費などの収支を正味の収支とし、年次収支額については前年度比で2%高い水準を維持する。</p> <p>⑫ 給食費の範囲内においては、給食料金の徴収を分担した上で、帳面を行なう。</p> <p>⑬ 給食費の範囲内においては、給食料金の徴収を分担した上で、帳面を行なう。</p>	<p>① 高見澤学長の持つ「ともに」、「力を活用した教科や教養科目の実験を実施する」とともに、ICTを活用した教科や教養科目の実験を実施する。 例として、各教科で用意して相応の実験を行なう教科の校内ネットワークを構築する。 また、ICTを活用して相応の実験を行なう教科の校内ネットワークを構築する。</p> <p>② 各教科の寄宿舎をはじめとする施設の活用により、経済性を高め、効率化を行なう。 ③ 基本的な研修会議を実施する。</p> <p>④ 生徒の手本として、専門分野の実習を通じて、学生に対する指導を充実する。</p> <p>⑤ 生徒会議、生活委員会、各部会等による活動を通じて、学生に対する指導を充実する。</p> <p>⑥ 生徒会議、生活委員会、各部会等による活動を通じて、学生に対する指導を充実する。</p>	<p>① 高見澤学長の持つ「ともに」、「力を活用した教科や教養科目の実験を実施する」とともに、ICTを活用した教科や教養科目の実験を実施する。 例として、各教科で用意して相応の実験を行なう教科の校内ネットワークを構築する。 また、ICTを活用して相応の実験を行なう教科の校内ネットワークを構築する。</p> <p>② 各教科の寄宿舎をはじめとする施設の活用により、経済性を高め、効率化を行なう。 ③ 基本的な研修会議を実施する。</p> <p>④ 生徒の手本として、専門分野の実習を通じて、学生に対する指導を充実する。</p> <p>⑤ 生徒会議、生活委員会、各部会等による活動を通じて、学生に対する指導を充実する。</p> <p>⑥ 生徒会議、生活委員会、各部会等による活動を通じて、学生に対する指導を充実する。</p>
<p>⑭ 男女共同参画を実施するため、各学年等学年会の参考となる情報収集・活用について充実を図る。</p>	<p>① 高見澤学長の持つ「ともに」、「力を活用した教科や教養科目の実験を実施する」とともに、ICTを活用した教科や教養科目の実験を実施する。 例として、各教科で用意して相応の実験を行なう教科の校内ネットワークを構築する。 また、ICTを活用して相応の実験を行なう教科の校内ネットワークを構築する。</p> <p>② 各教科の寄宿舎をはじめとする施設の活用により、経済性を高め、効率化を行なう。 ③ 基本的な研修会議を実施する。</p> <p>④ 生徒の手本として、専門分野の実習を通じて、学生に対する指導を充実する。</p> <p>⑤ 生徒会議、生活委員会、各部会等による活動を通じて、学生に対する指導を充実する。</p> <p>⑥ 生徒会議、生活委員会、各部会等による活動を通じて、学生に対する指導を充実する。</p>	<p>① 高見澤学長の持つ「ともに」、「力を活用した教科や教養科目の実験を実施する」とともに、ICTを活用した教科や教養科目の実験を実施する。 例として、各教科で用意して相応の実験を行なう教科の校内ネットワークを構築する。 また、ICTを活用して相応の実験を行なう教科の校内ネットワークを構築する。</p> <p>② 各教科の寄宿舎をはじめとする施設の活用により、経済性を高め、効率化を行なう。 ③ 基本的な研修会議を実施する。</p> <p>④ 生徒の手本として、専門分野の実習を通じて、学生に対する指導を充実する。</p> <p>⑤ 生徒会議、生活委員会、各部会等による活動を通じて、学生に対する指導を充実する。</p> <p>⑥ 生徒会議、生活委員会、各部会等による活動を通じて、学生に対する指導を充実する。</p>
<p>⑭ 男女共同参画を実施するため、各学年等学年会の参考となる情報収集・活用について充実を図る。</p>	<p>① 高見澤学長の持つ「ともに」、「力を活用した教科や教養科目の実験を実施する」とともに、ICTを活用した教科や教養科目の実験を実施する。 例として、各教科で用意して相応の実験を行なう教科の校内ネットワークを構築する。 また、ICTを活用して相応の実験を行なう教科の校内ネットワークを構築する。</p> <p>② 各教科の寄宿舎をはじめとする施設の活用により、経済性を高め、効率化を行なう。 ③ 基本的な研修会議を実施する。</p> <p>④ 生徒の手本として、専門分野の実習を通じて、学生に対する指導を充実する。</p> <p>⑤ 生徒会議、生活委員会、各部会等による活動を通じて、学生に対する指導を充実する。</p> <p>⑥ 生徒会議、生活委員会、各部会等による活動を通じて、学生に対する指導を充実する。</p>	<p>① 高見澤学長の持つ「ともに」、「力を活用した教科や教養科目の実験を実施する」とともに、ICTを活用した教科や教養科目の実験を実施する。 例として、各教科で用意して相応の実験を行なう教科の校内ネットワークを構築する。 また、ICTを活用して相応の実験を行なう教科の校内ネットワークを構築する。</p> <p>② 各教科の寄宿舎をはじめとする施設の活用により、経済性を高め、効率化を行なう。 ③ 基本的な研修会議を実施する。</p> <p>④ 生徒の手本として、専門分野の実習を通じて、学生に対する指導を充実する。</p> <p>⑤ 生徒会議、生活委員会、各部会等による活動を通じて、学生に対する指導を充実する。</p> <p>⑥ 生徒会議、生活委員会、各部会等による活動を通じて、学生に対する指導を充実する。</p>

6-2 研究や教育内容に関するための、あるべきものである。地域共同の問題に、その問題を解決する方法とともに、高等地域社会二、

平成 27 年度 年度計画意見表

平成27年度 年度計画意見表

○入学者の確保

【東郷委員】

●入学者の確保に対して、昨年同様、色々な取組みを計画されています。女子学生の確保に向けた取組みは昨年から実施されていますのが、その状況はいかがでしょうか？

【澤田委員】

●中学生のご父兄に、高専(または専攻科)卒業生が、大学を経由した場合も含めて、企業(社会)で高い評価を得ている工夫ができれば良いと思います。ちなみに先日の東洋経済臨時号では、日本主要400社の就職率は豊橋22.8%、長岡24.8%(新潟大学6.5%)でした。さらに長岡調査では、長岡技科大修了生の3年以内の離職率4%(全国平均30%)と環境がよい職場に就職しています。

また、女性技術者が社会で求められている状況も中学生のご父兄に伝えていただくと、優秀な女性高専卒者が増えると思います。

【阿部委員】

●高専機構との関係について:各高専からのフィードバックは可能な仕組みになっているか？もしそうなら、結果の機構へのフィードバック(広報資料・女子中学生向けパンフレット)を取組みとして明記してはどうか
・女子学生確保について:(質問)現状の比率は？女子在校生(先輩)からの一言等の記載を考えてはどうか

【岸本委員】

●静岡県東部だけでなく、中部・西部からも優秀な学生が受験するよう説明会、オープンキャンパス、体験会を充実いただきたい。

【清 委員】

●沼津高専への入学志望理由の分析から、特に就職率・進学率をアピールしていくことが重要かと考えます。

【山田委員】

●入学者の質的確保に積極的に取り組まれるとの由、喫緊の課題のように思えませんが、高専のPRの意味においては効果があると思います。中学校訪問によって、中学側の高専への理解が広がるものと思われます。

【木戸委員】

●・魅力は？・高校と何が違う？・入るとどうなる？これを明確にアピールが必要ではないでしょうか。50年を経た今でも高専は名前だけしか浸透していないように感じます。HPでも学校パンフレットでもきちんと出来ていますが、平易な表現で、例えば(1)技術者の基礎を実験、実習、研究を交えて「伸びる力」を身につける(2)寮生活で自立性、社会性を身につける(3)5年を終えて社会へ出ることが出来る技術者の卵になることが出来る、あるいは専攻科、大学編入の道がある。これは一例ですが、すばりキャッチコピーが出来るほどに、「高専、更に本校はこうだ」というところを端的に明確にして、外へアピールし、内でもそれを方針として徹底することが必要ではないかと思います。

○教育課程の編成等

【東郷委員】

●3年生、4年生に実施される学際教育は大教室での授業となっています。どのような内容でどのような形態で実施されるのでしょうか？教育課程編成の目玉になっているようですが、工夫が必要かと思います。
3年生と5年生の学習到達度自己評価は、重要な取組みであると思います。期待しております。

【澤田委員】

●2年次ミニ卒研の目的は何でしょうか？高専の前半はエンジニアとして必要な基礎力(基盤となる土台)を付けることが肝心だと感じております。

【阿部委員】

●前提としてカリキュラムの全体構成を教えてほしい。その上で記載されている新たな取組みについて、それぞれの目的・狙い・KPI・既取組みについてはこれまでの成果等を追記してほしい

【岸本委員】

●5年あるいは7年の一貫教育(広くかつ深い教育)で、創造力豊かな技術者を育成していただきたい。

【清 委員】

●TOEIC等による英語力向上の確認は、企業としても重要な人材確保につながり、必要とされるところと考えます。当社におきましても、全員TOEIC受講を義務化しております。

【木戸委員】

●PDCAとして捉えるとき、Pの部分で目的、目標をより鮮明(数値に囚われすぎることは無いと思います)にして、この実現のための課程編成、実施後の評価(これは「実施しました」の評価が多く見られるようですが、目的、目標の達成状況での本質的な評価)、改善を地道に行うことが必要かと思います。

○優れた教員の確保

【東郷委員】

●多様な経験を有する教員を60%以上としています。現在、何%くらいでしょうか？
教員の採用とともに教員の人事評価は、教育研究の活性化の上で重要かと思います。人事評価はどのようにされていますか？

【澤田委員】

●教員採用に1年“以上”的海外での経験を重視されています。他の大学でもその様な規定を設けている大学がありますが、リジッドに運用しすぎると優秀な人材を逃してしまうとの、失敗例を聞いていますので柔軟に運用することを期待します。ご存じのように、文部科学省の在学プログラムや学内の規定で“1年以内”との記述があり、数日足りないことになり、上記規定に触れた例もあると聞いています。

女性教員確保の努力がされていると感じますが、午後4時以降の業務などの配慮(会議や実験の業務のサポート体制)を整えられること期待します。(本学の学生実験においては、女性教員がいるときは、同僚が4時以降サポートを自らやって出ていただきましたが、システムが必要と感じます)

【阿部委員】

●研修参加・経験人数を全体の何%といった目標となっているが、それぞれの取組みに参加する教員にとっての達成基準は何かを目標として示すべきではないか。それによって、優れた教員とはどういう資質を持つべきが明らかになり、教員のモチベーション向上に繋がるのではないかと考える。

【岸本委員】

●(国立なので難しいかもしれません)キャリア公募の制度を広げてはいかがでしょうか。

【清 委員】

●他機関との教員交流の中で近隣企業への研修派遣についても検討されているようですが、企業からの講演等も授業の中に検討されてはいかがでしょう。(既にされているのでなければ)

【木戸委員】

●一般論としてですが、「伸びる学生」を育てるには「伸びる教員」が不可欠かと思います。積極的な組織的な教員育成プログラムを望みます。その中で外部との交流や民間企業との交流は重要要素かと考えます。

○教育の質の向上及び改善のためのシステム

【東郷委員】

●アクティブラーニングは学生の主体性を育成する上で有効な方法であると同時に、一部の学生が積極的に参加しない、教員の負担感が大きいなどの問題もあるかと思います。現在、実施されているアクティブラーニングの本数と内容はいかがでしょうか？

インターンシップと長期学外実習が計画されていますが、これは必修で実施されるのでしょうか？

【澤田委員】

●学生アンケートや自己評価などを通して、学生が 5年間(7年間)のあいだで、どのようなきっかけやタイミングで成長したか、または考え方が変わったかを“見える化”できる”電子カルテ”のような仕組みがあればと感じました。このデータがあれば学生が進学した後も、継続してサポートできるようなことを本学も行いたいと思っています。

【岸本委員】

●産学・学校同士の連携を強め、外からの力も活用することで、質を高めていくことを望みます。

【清 委員】

●インターンシップの実施、企業人材の活用は、とても有効であると考えます。

【木戸委員】

●モデルコアカリキュラム、アクティブラーニング、ループリックなど初めて目にすること勉強になります。詳しく理解するところでは全くありませんが、その理念はどれも重要なものと思われます。これも形だけにとらわれることなく、現場(身の丈)に合わせて、今の大変な一歩を自分に合わせて創造しながら進めていただくことを強く望みます。

○学生支援・生活支援等

【東郷委員】

- 女子学生に対するキャリア形成支援は良い取り組みであると思います。その取組み内容と成果を紹介ください。

【澤田委員】

- 高専学生各自のメンタル状態を把握するため、工夫(仕組み、取り組み)ができればと思いました。精神状態がどのように変化しているかを把握して、カウンセラーにくる前に対処できればと感じます。(難しいことだと思いますが...)

【阿部委員】

- これまでの経緯を知らないため、個別の取組みが順不同に並べられているという印象を受ける。
- ・前提としてモデルカリキュラムを作成した狙いを教えてほしい。個々の取組みの狙いは理解できるが、それぞれがどのように関係していく、全体として何をゴールとしているのかを知りたい。

【岸本委員】

- 寮生活は学生が満足したものになっているでしょうか。遠方からも学生が志望する環境を作っていただきたい。

【清 委員】

- 企業の新入社員にメンター制度を取り入れていることがあります、学生におけるメンター制度の検討をされてみたらいかがでしょう。

【木戸委員】

- H25年度に、学校から要請を受け一OBとしてキャリア教育講師で一部協力させていただきました。その中で、学生たちが自分の生活を将来を周りのクラスメートとこの時だけはマジメに(かつ楽しく)語り合う姿を見て、その重要性を改めて確認しました。実施方法は多種多様でしょうが、どれも学校生活をより有意義に送る上での「モチベーション向上効果」に相当するものかと思います。

○教育環境の整備・活用

【東郷委員】

- 男女共同参画とワーク・ライフ・バランスの取組み状況はどうでしょうか？

【澤田委員】

- 外部資金を獲得するためには、高専教員だけでは難しい面もあると思います。大学教員、国研の研究員と連携研究を日頃行い、そのチームでの研究費獲得を目指すサポートをお願いできればと思います。本学でも技科大ー高専連携プロジェクトをしていますが、高専の執行部の方々も、その取り組みをバックアップする(もしくは取り持つ)サポートをされるといいとおもいます。

【阿部委員】

- (質問)留学生比率はどのくらいになっているのか、目標はあるのか、教えてほしい

【岸本委員】

- 使用設備は、先端技術を導入できる計画を立案し、予算獲得に尽力いただきたい。企業の寄付を募ってはいかがでしょうか。

【清 委員】

- 省エネ・CO₂削減活動、ISO認証要件(法的要件)の習得・意識づけは、将来の企業人としても有効な知識になると考えます。

【木戸委員】

- ハード面は予算と関係するものですが、ソフト面ではその気があればすぐに取り組めるものかと思います。環境整備、過ごし易い、居心地の良い学校(いろいろあると思いますが)を目指していただきたいと思います。このことは民間企業でも生産性、品質向上と直結する意味で、学校でも是非取り組んでいただければと考えます。

○研究や社会連携に関する事項

【東郷委員】

- 外部資金の獲得と研究成果の発信は高専の重要な使命の一つと思います。その中で、研究や産学連携と卒業研究など学生の教育との関係はどのようなスタンスで進められておられるでしょうか？

【澤田委員】

- 高専の保護者会などへの情報共有は、学生の進学や就職先を考える上で、今後大切と感じております。保護者会との連携はどのようになされていますか？

【阿部委員】

- 大学等の教育機関が少ない静岡県東部において、沼津高専は産学連携の要として企業からの期待が高い。企業にとって役立つ人材を輩出することだけでなく、ここに計画されている取組み等によって、技術面を中心につれまで以上に地域企業に貢献できるよう努力していただきたい。

【岸本委員】

- 企業との連携、地域との連携を強化いただきたい。

【山田委員】

- 高専の存在が、一部の関係者の範囲にとどまっていて、一般市民からは縁遠い存在になっているように思えます。社会との連携をより進め、その様子を広く広報していく必要があると思います。

【木戸委員】

- 産学連携は、特に高専の性格上からも重要な取り組みだと思います。如何にパイプを太くするかが課題かと思いますが、コーディネーターの活動、企業研修、その他、一層の取り組みを望みます。また、この活動に学生も含めていくことで、生きた教育ツールとして活用されることを望みます。

又H27年度計画には「卒業性ネットワークの構築と活用」が色付きで記述されています。同窓会の存在目的の重要な項目ですので、同窓会としても、ぜひ学校と連携を取りながら出来ることから、積極的に取り組みたいと考えています。

○国際交流に関する事項

【東郷委員】

- グローバル化への対応は重要な課題だと思います。現在の留学生数、日本人学生の海外派遣数（海外インターンシップ含む）はどのような状況で将来はどのくらいの数を目指しているのでしょうか？

【澤田委員】

- 三機関連携事業「英語で講義できる教員育成プログラム」への参加のための予算措置が少なくなりますので、高専での原資の確認が必要です

【阿部委員】

- 企業のグローバル化が必須となる中で、高専としてグローバル人材育成をどう位置付けているのか、また学生にどこまでグローバル化を求めるのか、基本的な考え方を整理する必要があるのではないか

【岸本委員】

- 地球規模の視野を持った人材が求められています。4年生・5年生の留学制度の充実をお願いします。

【清 委員】

- 英語力向上の目的からも実践で習得する機会をより幅広く提供できていることが大切であると考えます。

【木戸委員】

- この活動は「入学者の確保」でも目玉になるのでは、あるいは目玉になれるような活動成果（質的、量的）を期待しています。HPでもパンフレットでもこの内容を積極的に取り入れると良いかと思います。

○管理運営に関する事項

【阿部委員】

- 教育機関にも高い危機管理能力、情報セキュリティ、コンプライアンス意識向上が求められる時代であり、特に、学生の個人情報等の保護については情報システムの堅牢性に加え、職員の高い意識が必要である。そのための取組みの充実を検討していただきたい。

【岸本委員】

- 地震やストレスに関し、安全に対する備え、心・体の健康のケアができる体制を充実させてください。

【清 委員】

- 教職員と学生が一貫となった透明性ガイドラインが明確となったコンプライアンスマニュアルが整備されている。

【木戸委員】

●「環境の整備・活用」でも触れましたが、この点は社会組織の中でどこでも最も基本となる事項かと思います。学生へも社会準備教育の一項目として、学校自らの実施内容(目指すところと具体的な展開)を取り上げることが、教育面及び管理運営の質向上の両面で有効かと思います。

○総合所感(本校に対する意見等)**【澤田委員】**

●両技科大と高専はこれからも良い技術者を育成するための、良いパートナーとして行きたいと思っておりますので、どうかよろしくお願いします。一方、大学もそうですが、地元企業への優秀な技術者の輩出もたいへん重要な役目だと感じております。地元に要求を取り入れて、地元企業との連携の活性化についても検討事項に入れられたらいかがでしょうか？決してグローバルだけではないと思います。

【阿部委員】

●まず、個人として、高専としてのカリキュラムの考え方や高専機構と個々の高専の役割分担等、前提知識が十分とは言えないため、別途情報提供をお願いしたい。

・私の誤解かもしれないが、高専の独自性が薄れてきているのではないかという気がしている。やはり高専としての独自性を出すことが重要であり、例えばより企業との実践的な連携を行える、地元密着の教育機関であり続けることもその一つではないか。グローバル化、国際交流という流れとのバランスを考慮する必要はあるが、独自性を求める取組みとして検討されてもよいのではないかと思う。

・事業計画全般について、取組みそれぞれに対する評価指標を具体的に明記した方が良いのではないか。

【岸本委員】

●(企業の責任でもあります)静岡県内に定着する若い人を育成していただきたい。地域を活性化させるため静岡県内に定着させていただく指導をお願いしたい。

【清 委員】

●この度、運営諮問会議委員を初めてお受けし、従来からの活動に対する理解が浅いことから、意見内容が感想的になってしまいました。総合的所管として、業務運営に関する計画が多岐にわたり、目的目標に向かいきつちりと立案され実施されている印象を受けております。

【山田委員】

●高専の内情に精通している訳ではないので、回答は極めて難しいですが、高専の職員の皆様や生徒、保護者の声に基づいた運営上の課題が明らかにしていただけると、その課題に対する方策についてコメントできます。課題が見えない中での教育計画はコメントが難しいものがあります。

【木戸委員】

●諮問委員に委嘱されて、初めて年度計画などに目を通した次第で、勝手な思い込みが多々あるかと思いますが、感想として記述しました。少しでもご参考となれば幸いとするところです。

・同窓会運営も名簿システムがHP上で動くことになりましたが、活動実態は維持管理が精一杯のところです。「社会連携」の部分で同窓会に求められる、同窓会が果たさなくてはならないことが生まれてくるでしょうが、それは同窓会としても望むところです。但し、あくまで出来ることから一歩々々だと考えています。

・留年者、退学者の実態を具体的に知るところではありませんが最近はかなり多いと聞きます。入学選抜(マッチング)の基準には学力や適正などに加えて素行なども加味した総合的な配慮も必要なのかとも思います。本校教育理念「人柄のよい優秀な技術者となって世の期待にこたえよ」は卒業後も何十年でも同窓生それぞれの中できており、これからもそうあることを願っています。

運営諮詢会議 議事要旨

(平成 27 年 7 月 31 日(金) 本校3F 大会議室)

平成27年度 沼津工業高等専門学校運営諮問会議 議事要旨



日 時：平成27年7月31日（金）

場 所：沼津工業高等専門学校管理棟3F大会議室

出席者：【運営諮問委員】（敬称略）

第4条第1項第1号委員（大学等高等教育機関の関係者）

静岡大学副学長（企画戦略・情報担当理事）	東郷 敬一郎
豊橋技術科学大学学長補佐・高専連携室長	澤田 和明

第4条第1項第2号委員（産業・経済界の関係者）

富士通株式会社 沼津工場長	阿部 欣成
東芝機械株式会社 沼津工場長代理	富永 聰
日医工ファーマテック株式会社 静岡工場代表取締役	清 勝彦
矢崎総業株式会社 技術研究所研究企画部長	植松 彰一

第4条第1項第3号委員（本校が所在する地域の関係者）

沼津市教育委員会 教育長	工藤 達朗
地区中学校長会会长 沼津市立門池中学校長	山田 健

第4条第1項第4号委員（本校の支援団体の関係者）

沼津工業高等専門学校 同窓会長	木戸 実
-----------------	------

【本校出席者】

藤本校長、蓮実副校長（教務主事）、大久保校長補佐（学生主事）、小林校長補佐（寮務主事）、
高野校長補佐（専攻科長）、大山事務部長、村松機械工学科長、佐藤電気電子工学科長、
遠山電子制御工学科長、藤尾制御情報工学科長、後藤物質工学科長、勝山教養科長、
中園図書館長、青田総合情報センター長代理、芳野地域共同テクノセンター長
小林教育研究支援センター長、真鍋学生生活支援室長
露木総務課長、宇野学生課長、神田総務課課長補佐、山口総務係長、田中総務係員

議題

I. 開会及び校長挨拶

議事に先立ち、高専がおかれていた状況等の説明を踏まえ、校長から挨拶があった。

II. 議長選出

総務課長進行の下「議長の選出は、運営諮問会議規則第5条1項に規定に基づき、各委員の互選により選出される。」旨説明後、立候補者を募ったが特に申し入れがなかったので同課長から「静岡大学副学長、東郷委員を推薦したい」旨の提案があり、これを了承した。

III. 議長及び各委員挨拶、並びに陪席者紹介

議長及び各委員から自己紹介を兼ね挨拶があり、引き続き総務課長から陪席する学校関係者の紹介が行われた。

IV. 平成26年度自己点検評価「評価シート」への対応について

平成26年度運営諮問委員から出された評価シートへの対応状況について、学校側から説明が行われた。

【以下回答】

(副校長)

- ① 昨年度受験者数が大幅に減った事を問題と考え現在解析中である旨報告された。
- ② P R方法について委員から質問があるが、様々な方策を考え学生募集のP Rを実行して来ているが、効果的な方策を見つけられていないのが実情であると認識している旨報告された。
- ③ 教育課程表についての意見に対し、英語教育について特に力を入れていて、非常に質の高い授業を行っている旨報告された。
- ④ 教育の質の向上、及び改善のためのシステムについて、ポートフォリオやループリックを用いて、自己の評価を行っている。授業を作る上でも、商工会議所や金融機関と連携している旨報告された。

(校長)

- ① 優れた教員の確保について、高専の教員として求められる教員像の説明。専門科目、教養科目で求められる学位を有する教員の確保については目標を達成している。女性教員の割合については引き続き努力する。目標や資格も大事であるが、高専の教員として機能するかどうかも大事な要因として、今後見ていく旨報告された。

(校長補佐・学生主事)

- ① 実施しているQ-Uについてのアウトプットについての質問がありましたが、担任教員が学級運営・学生指導の資料として使用しているのと併せて、検査結果を他高専と連携して本校学生の回答結果を客観的に比較分析するために、Q-U分析の専門家に解析を依頼し、その情報は教員FDにおいて全教員にフィードバックし共有している旨報告された。
国際交流に関する事項については、ここでお話しするような事は特にないので省略させて頂く旨報告された。

(事務部長)

- ① 教育環境の整備活用について、キャンパスマスターPLANの再構築、変更点については、従来の整備計画の明確化を図った。併せて緊急性のあるものについて短期的・優先的に整備が必要なものについて洗い直した。現実的には国の財政が厳しく、新設の建物には予算がつかない現状である旨の報告がされた。
- ② 節電の取り組みについて、平成26年度の機構からの配分予算は、対前年度比約1500万円減額された。平成25年度補正予算で導入された大型の機器等があり、かなり電気需要が

上がっているという危機感から、教職員の皆さんにご協力を頂き何とか節電を実施してきた旨報告された。

- ③ 大型設備の利用について、26年度においては順調に機器を利用した結果だと思われるが、平成27年度に入り、教員の外部資金の申請件数や採択件数の増加からみて、順調に使用されていると考えている。問題としては大型機器の維持費が今後非常にかかるので、その対応を考えている。外部への周知に関しては昨年5月のお披露目会、12月のテクノフォーラムの見学会で周知した旨報告がされた。

(校長)

管理運営と総合所見と取り纏めの観点から、以下の3件について回答された。

- ① 校長のリーダーシップについて、お金と人員が限られている中でどこに選択と集中をするのかは、部長からも話がありましたが経費はどんどん減っていく。人員も80数名その中である程度重点的に絞らなければいけない。特に研究面。ただ絞るにしても80数名のパワーが一番よく活かせるような所にいくつか絞ろうと考えている。その体制を本年度模索して作っていく。来年度これをなんとかしようと考えている旨報告された。
- ② 文系の教育、教養教育をどうするのかについては、他高専に比べてかなりよく整備されている状況でモチベーションも高いと考えている旨報告された。
- ③ 留年に関する問題については教務主事にもお願いしているが、本校の学生は中学からかなり上位の生徒を送って頂いている。その学生が色々な事があると思うが、やる気を無くすなり、ハードルが高いのだろうが、留年して退学していく。この様な状況がある。学生がやる気を無くしたとしてもそれは沼津高専の責任だと思っている。入った学生がやる気を無くさない様に、勉強にずっと興味を持ち続けられるように色々工夫をして行こうと思っている。今は留年率が高いが少しずつ減らしていくようと思っている旨報告された。

(東郷議長) 有難うございます。昨年度の自己点検評価について、評価シートへの対応の概略を説明して頂きましたが、ご質問等はよろしいでしょうか。それでは沼津高専の概要について説明をお願いします。

V. 沼津工業高等専門学校概要説明

藤本校長から沼津高専の学校概要等について、PPT資料に基づき説明が行われた。

VI. 審議事項

1) 沼津高専攻科長期インターンシップの重要性

校長補佐（専攻科長）からPPT資料2-1に基づき標記提案理由について説明が行われた。

(東郷議長) 有難うございました。それでは協議に入りたいと思いますが、特に最後に上げられました4つのテーマ、(1) 交通費等の経済的支援に関する良策はあるか。(2) 長期インターンシップの適切な期間はどの程度か。(3) 長期インターンシップに大学の研究室を含めるべきか。(4) 企業側から見て、長期インターンシップは学生に役立つと思うか。の何れかからでもよろしいので、企業の方からご意見を頂きたいと思いますが、どうでしょうか。

(阿部委員) 企業から見てインターンシップは役立つかという事について、大学生をかなり多く受け入れしているが、期間はまちまちで、正直なところ役に立ってもらおうと考えてインターンシップの受け入れをしていないのが現状です。学生に企業を知ってもらおうという趣旨の方が強い。部門にもよると思うが、自分はソフト部門なので、仮に1名の学生さんに半年入って頂いてもそれが実務に役立つかと言うとほとんど変わらな

いというか、むしろ指導するのに工数がかかってしまう。と言うのが現実です。ハード部門がどうかはわからないのでコメントできないですが、優秀な学生の方に来て頂くために受け入れしている印象が強いので、期間がどの位かと言うのは、インターンシップに来て頂ける学生がどの位の期間なら時間が取れるのかという感じで期間設定をしている。

(東郷議長) 通常のインターンシップなら期間が2週間とかが多いですね。

(阿部委員) はい、ただ海外の学生も受け入れているので、その場合は3か月位のものもありました。

(東郷議長) 例えば、2週間と4か月ではインターンシップになった場合は企業側の対応が変わってくるという事がありますか。

(阿部委員) 先程短期とかと言う分類がございましたけれども、短い場合は知つてもらおうという意識が強くなります。ある程度長い期間受け入れるとなると、知つて頂くことがメインだけれども、学生の方にも何かを得て帰つて頂きたいという意識は働きますので、受け入れる部門にもよりますが、何をやってもらうかという事をかなり真剣に考える。と言う対応をしています。

(東郷議長) ある程度長くなると企業側としても受け入れ態勢をちゃんとして、きっちり実技であるとかを行うという事ですね。

(阿部委員) 先程の報告会と言うものを内部でもします。

(東郷議長) 有難うございました。他の企業の方はいかがでしょうか。

(清 委員) ご意見が出たのとほとんど同じですが、企業側としてはインターンシップを受け入れるという事は、ストレートに言えば我々の企業には是非来たいと言う人に来て頂けたらと言うのが本音です。短期か長期かと言うお話ですと、短期と言うと1週間2週間位ですかね、旧社からの経験から申しますと、医薬品の製造工場なので、製造工場といつても、ものづくりをする所、品質管理をする所、薬事関係とか、技術メンテナンス関係といった、色々な職種がありますが、我々の会社、企業の中で色々な職種があることを広く見て頂いて、自分だったらこんな所へ行きたいと言う気持ちを持って頂けたらと言う気持ちで、1・2週間の間で全般を見て頂いてと言うような内容になると思います。経験上4か月位という長期インターンシップの経験が無いですけれども、先程の表から見ても、見学・研修・実技と言う比率の中でもっと実技を多く経験したいと言う希望があるのかなという気もしています。そう言う意味からすれば長期インターンシップをすれば必然的に実技の部分が増えると思うのですけど、先程の報告書を見させて頂くと、企業の中身を見て頂くと言うよりも、4か月間でどんなテーマを持って、何を得て頂くかという事を真剣に考えないといけないと思うので、企業側と学生さんが事前にきっちり話をして、こんなテーマ、こんな所でこんな成果を出そうという目標をきっちり決めてと言うような、やる前の話し込み、ご相談が必要だと言う気がします。最後に経済的負担と言う所ですが、個人的な意見ですが、このようなことが企業と学生さんの間で話し合われたうえで実施するならば、企業側が負担すべきだと思います。

(東郷議長) 有難うございます。お二人の方どうでしょうか。

(植松委員) 質問ですが、沼津高専の場合このようなインターンシップの場合、企業側から給与と言うか、アルバイト代とかはどのように考えられていますでしょうか。

(専攻科長) 学生には一律、そのようなものは受けとらないように指導しています。

(植松委員) 我々の研究所でも、10年ぐらい前になると思いますが、長岡技科大から毎年インターンシップを受け入れていますが、大体10月頃から2月頃まで受け入れています。企業側からのメリットとすれば普段だと後回しになるような課題を、大変だけどやつ

てもらおうかという事になる。4か月5か月あるとその方にお願い出来て、本来自分達がやらなければいけない事をやって頂けて、その成果をしっかりと残すことが出来る事があり、非常に企業側の立場からすると有意義だと考えている。若い所員をインターンシップの学生に付けているが、色々と伝えなければならないので、企業側も中途半端な理解では伝えられないという事から、若い所員の教育にも役立つと考えている。1・2週間のインターンシップを人事サイドから受けろと言われ受けますが、所員はあまり良い顔をしないです。短いと何も出来ないので、会社ってこういうものだという事を見学されて、楽しかった終わりという形では、なるべく受けたくないと考えている。だから長期の方へ行くと言うのは我々としては歓迎します。

(東郷議長) 有難うございます。どうでしょうか。

(富永委員) 私どもの会社が作っているものは一般消費者向けのものではないので、消費者の皆さん学生さんもご存じない。人事部とすると学生との接点と言うかそういうものの一つとしてインターンシップがあると捉えています。工業高校、高専、大学を含め、ご要望があれば基本的にはお受けしています。その事で就職先の一つとして見て頂くためにアピール出来ると考えています。また私どもの社員に対しての教育という事もございまして、短い期間であっても、若い人にものを教えるという事は難しいという事を学ばせる機会として捉えています。一般消費者向けの物を作っていないので、学生さんがどのようなことを学んで頂いているかはよく分からないが、感想文等からは、大変良い感触を頂いています。忌憚のない感想ではないかも知れないと考えていますが、ここ数年インターンシップを経験した学生さんが弊社を受験してくれています。学生と企業のマッチングという面ではインターンシップは非常にいい制度を感じています。

(東郷議長) 有難うございます。今までのご意見を纏めると。企業の方から見ると、求人と関係するという事と、社内の若い人の育成にも使う事ができ、短期よりも長期の方がある程度覚悟を決めてそういう事に向かう事ができる。先程の説明にあったが4か月のインターンシップ受け入れ企業が100社のうち25社あったという事に僕は驚いています。インターンシップを受け入れることは企業にとって大変な事だと思っていたので、企業側のこれまでの話を聞くと、うまく連携すれば非常に有効なものだという事ですね。後、大学の方を聞きたいのですが、豊橋技科大も2か月のインターンシップを実施しているが、長期インターンシップその問題点は何かありますか。

(澤田委員) 豊橋技科大としてインターンシップの問題点があるのは、学部4年生の最後の2か月間で実施しているので、我々がインターンシップ受入のお願いに行くと、企業にすると大学生のインターンシップを見た時、就職の一環として捉えているが、学部の4年生だと最後の1・2か月と言うのは次にマスターに行くことが確約されているので、企業側からすると就職してくれる可能性が非常に低くなるので、会社のメリットとしてはあまりおいしく無いと人事担当者から言われている。長岡技大もマスターへ行く子がインターンシップへ行く。企業から見るとマスターの時期のインターンシップは入社の確立が30%に上がる所以、会社としてのメリットがあると辛口に言われる。

(東郷議長) 有難うございます。企業とすればインターンシップと言うのは人を割いてかなりの時間、エネルギーを使うので、求人に繋げたいというのはある。もう一つ、経済的支援の良作はあるかとの質問ですが、今は、インターンシップに行く際企業から交通費その他は受け取らない様指導されているのか。

(専攻科長) 基本は学生側が負担する事になっているが、企業から交通費等を支給すると言つて頂ければそれは拒まないと指導している。ただ賃金と言う形で受け取る事は筋が違うという事で受け取らないよう指導している。

(東郷議長) 賃金と言う形では受け取らないが、宿泊場所の提供、交通費と言う形なら受け入れてもいいという事ですね。

先程のアンケートで問題になっているのは大学にインターンシップに行ったときに、大学は払う事が出来ないので問題になる訳ですが、豊橋技科大では高専の学生がインターンシップに来た時に何かありますか。

(澤田委員) 制度を新しく作っております。専攻科生のインターンシップを引き受ける時に、本学への入学を強く希望する学生で入学前の打ち合わせが済んでいる学生、全学で5名ですが、その方には無料で大学の中にワンルーム程度のマンションを準備できる仕組みを作り、昨年度から運用しています。その代り、必ず本学に入って来て頂き、本学の教員と高専の教員一緒にその学生を育てて行く。我々の言葉で言うとバトンゾーンと言う、高専と我々の大学との間のバトンゾーンのモデルケースとしてそのような宿泊施設を準備するというような試みを始めた所です。

(東郷議長) それは非常にユニークな、うらやましい制度ですけど、静岡大学では今日紹介された矢代先生の所は私の研究室の隣で、今年行かれる島村研究室は私の研究室で、私と一緒にやっている所で、とても出来ないです。おそらく高専の先生から個人的なコネクションで連絡があり、インターンシップで受け入れてくれと頼まれているのだと思われるが、大学の方としても高専からのインターンシップの学生に対して、「寮とか交通費を提供出来ますよ」と言うのは難しいと思う。研究室によっては、お金に余裕のある研究室ですとそう言った対応は出来るかもしれません、そういう形にはならないと言う感じがします。豊橋技科大の制度は特別だと思う。

(澤田委員) 我々の大学は高専の受け入れ先であると言う事で学長がそのような制度を作って下さったと思います。

(東郷議長) そういう事だと思いますね。大学にインターンシップに行く場合の経済的支援をどうするかという事は高専側として考え方で、大学と協定を結ぶ時、そういう所まで話を進められるかという事だと思います。

もう一つ気になっていますのは、長期インターンシップに大学の研究室を含めるべきかどうかですが、最初の説明ではインターンシップは学生に社会を経験させるという事が、大きな目標として挙げられている。これに関してはどのように考えますでしょうか。

(工藤委員) インターンシップの目的もそうですが、私は沼津高専の目的が、技術者を育成するという大きな目的をどのように考えて派遣先を決めるのか。研究者として育てたいのなら大学の研究室や、企業の研究所に行くのがよい。となれば短い時間ではなくて、有る程度一定の4か月か3か月がよい。一方、実践的な技術者を育成するとなれば、研究部門と言うよりも現場に入って、仕事の段取りや、人間関係づくりを知ることがインターンシップの目的ではないかと思う。技術者として現場で働くにはどのような知恵とか知識、ノウハウが必要かと言ったものを身に付ける事が大事ではないかと考えます。そうすると4か月は長いのではないかと思います。短くコンパクトにやった方が学生にとっては良いのではないか。教育界にも教育実習があります。インターンシップとは言いませんが、3年生もしくは4年生が2週間から4週間学校に来て実践的な授業をやって行く。これは学校の教員にとっては大変な事で、自分の授業を持ちながら学生の面倒を見なければならない。しかしいずれ教育界に入る後輩を育てているという事で受け入れているというのが本音です。教育実習も大学で理念・理論を学んで、それが実際の子供たちに向き合って教えた場合にその通りに成るのか成らないのか、そこで自分の適性を考えて、教員をやるのをよそうと言う学生もいる。逆に子供たちは本当に素晴らしいと言って是非先生になりたいと言う学生もいる。それを見極

めることが教育実習である。それとインターンシップとの位関係があるかと言うのを一概には言えませんが、その様な意味合いもあるのかと思います。

(東郷議長) 有難うございます。他にご意見ご質問がありますでしょうか。

(山田委員) 私は詳しくは分からぬ所ですが、大学の研究室へのインターンシップが大学側のメリットがあるのか、一方高専の学生にメリットがあるのか、そこが分らない所ですが、現実問題、現在45%の学生が大学へ進学するとすれば、高専7年制の問題とか設立当時と違う状況の変化とか、高専の立ち位置、誰でもが大学へ行く時代、大学の名前さえ問わなければ全入時代と言われている現在、高専として果たして行く、これからからの高専の存在意義にも大きく関係して行くと考えます。大学までも含めた形で高専が歩んで行くのなら、この検討が必要なのかなと私は思います。

(東郷議長) 今の話は、先程の豊橋技科大の話と一緒に、入学生としてある程度見ている事もあるし、おそらく他の受け入れている大学もきっと協定を結んでいますので、編入学して来るという所を見ていると考えられます。大学のインターンシップはそういう所があると思います。ただ、今言わた通り、大学の研究室を高専のインターンシップとして認めるかどうかと言うのは、非常に重要な事だと思います。高専の立ち位置をはっきりして、大学の研究室は認めないとするのか、あるいは研究室も認めると言うのはしっかりとと考えなければいけない事だと考えます。何かご質問ございますか。

(木戸委員) 企業で勤めていた立場で学生を受け入れた事があるので、先程阿部工場長が言われたように、双方のメリットを充分に出すためには、準備や指導に多くの工数がかかるとか、短期間の設定のこともあってインターンシップ本来の目的というより毎年求人活動のためにしていると言うのが本音の所だったと思います。その中で今後の方針として受け入れ機関・企業へのアピールポイントの1番は製品の開発・研究過程などに若い力を大いに利用出来ること、これは受入側の組織がどれだけ前向きかという事に掛かっていると思います。前向きの組織は若い力を活用出来るし、活用したい。若い人には、企業では持っていない未経験だからこそその視点を持っており、それをどう使えるか、大いに利用していただきたい、若い人が入って来た時にどれだけ教育が出来て、役に立つ仕事を短期間でやってもらうかは企業自身の組織強化にもなりますから、製品の開発も含めて、日常のルーチンワークの中に新しい人が入って来た場合どれだけ新しい事がやれるかと言うきっかけづくりにもなる。そう言った前向きな組織ならば、学生さん是非来て下さいと言うようになれるかなと思います。そのような受け入れ側の長期的なメリットがアピールポイントだと思います。また個人的な考え方ですが、学生が実際やる仕事は「手足仕事」でいいと思います。現場の仕事を手足としてどんどん使う、いっしょに汗を流す、学生にはこれが本当の良い経験になります。賃金なしで手足として使うのは企業のその場でのメリットにもなります。それで両方メリットが成り立つかと思います。

(東郷議長) 有難うございます。時間も押し詰まってきたので、インターンシップについては、期間については短期と言うのはあまり実質的ではないという意見で、期間については4か月が良いかどうかは考える必要がある。受け入れる側もメリットを考えて受け入れる訳だから、良い連携を取って受け入れてもらえる企業、大学と繋げてインターンシップを実施する必要がある。もう一つは、大学の研究室を含めるかどうかは、高専の立ち位置を何処に置くのかが非常に重要である。と言うご意見を頂きました。

それでは次のテーマに移りたいと思います。寮生活の効用について学校側から説明をお願いします。

2) 寄生活の効用

校長補佐（寄務主事）からPPT資料2-2に基づき標記提案理由について説明が行われた。

（東郷議長） 有難うございます。それでは説明のあった3点についてご意見を頂きたいと思います。まず、寄生活に対する評価ですが、企業からは体験した学生に対しての評価は出来るのか、中学校側からは保護者・中学生から沼津高専の寄生活はどのように見えるのか等の観点からお伺いしたいと思います。

（植松委員） 色々な事をする上で、コミュニケーションをとると言う事が非常に重要で、それを出来ない若い方が沢山入って来ている。最終的にメンタル不全になると言うパターンで行ってしまう。その中である意味、沼津高専の特色である寄に入ると言う事は継続していく方が良いのではないかと考えます。それは1年だけでも良いのかなと思う。理由としては2年間の全寄制では高学年で寄に入れない学生が出てしまう事も考慮して考えないといけないと思う。こういう所である意味強制的な話になるかもしれません、集団生活をする中で自分の立ち位置をしっかり解って発言すべき時は発言して、聞くべきは聞いて、一緒に楽しむときは楽しんでと言う経験は、我々企業に入って来て頂いて非常に重要なかなと思います。沼津高専出身者から話を聞いて来ましたが、否定的な話は無くてむしろ良かったと言う話ばかりでした。彼らを見ていても良いかなと思っています。

（東郷議長） 寄生活を体験してきた学生は、コミュニケーション能力とか非常に良いので、これは維持すべきであろうと言うご意見でしたが、他にはどうでしょうか。

（山田委員） これから若い子供達に求められていくものと言うのは、自立と社会性だと思う。これは親元をいち早く離れて、自主生活を経験すると言うのが一番の事だと思います。ですから私は今の委員のご発言に賛成です。高専の特色である寄生活を是非継続して頂きたいと考えます。卒業時のアンケートにもありました、高専の特色である寄生活をする事により、「集団生活における協調性」「自己管理能力」「友人関係の構築」等十分な成果を出しているのを見ても、胸を張って自信をもって、入って来る保護者には伝えて行くべき事で、高専はこういう理念で継続して行くべきだと思います。ただ、細かいルール的な事は現状に即して柔軟に対応して頂いて良いと考えます。

（東郷議長） 有難うございます。他にございますか。

（工藤委員） 企業は従来から、ある程度職人的な技術を重要視して来たと思いますが、最近は技術がどんどん高度になるにつれて、チームで仕事を成し遂げて行くように変化しているのではないかと思います。となると、その中での人間関係づくりをしながら、協調性を持ちながら一つの仕事を成し遂げて行くと言う形になればなるほど、この寄の存在は一つの訓練をする場として望ましいと思います。しかし最近少子化になり、どの家庭も子供は一人か二人の社会になって来ると、家庭の中でも訓練されていない。昔の様に兄弟が多いと、その中で色々な意味で揉まれて育ってくるが、一人・二人ですと、そのように揉まれる体験をしていない。もう一つは、最近は発達障害という言い方をしますが、通常学級の中にもLD児・ADHD児・自閉症・アスペルガー的な子供達がおります。文科省の調査でも6%、静岡県でも5~6%おります。特にLD児の子は一つの事にこだわる傾向があり、良ければ非常に良いのですが、逆に少し外れてしまうと人間関係をうまく作れない。技術的に追求して行くには良いと思うが、コミュニケーションを取りながら物を作りに行く事は苦手な子が今どんどん増えて来ている。少子化にもかかわらず発達障害の子供は右上がりに増えて来ている。多分沼津高専にもその様な生徒が入って来ていると思われます。となると、寄は良いと思っているが、画一的に強制的にやると言う事はどの程度今後通用するのかと考えてしまい

ます。従って今後どんな手当をして行くのか。カウンセリング等もあるでしょうが、フォローをきちっとやって行かないと、難しいと思っています。もう一点は、今の子供達は、何故これをやるのか、何故こういった練習をするのかとか、例えば寮であれば何故寮に入らなければいけないのかという理屈をきちっと説明して、納得しないとなかなか本気になってやらないと言う所があります。なぜ沼津高専の寮に入ることに意義があるのかをきちっと説明してあげることが大事だと思います。

(東郷議長) 有難うございます。今話に出ました発達障害の人と言うのも全寮制になっていますか。

(寮務主事) 基本的には全寮制です。ただ、今はそう言った子も増えて来ておりりますので、予め親から相談を受けた場合には、実際には学生生活支援室が対応していますが、親からの情報を指導寮生に伝達し、必要に応じた指導をするようにしています。困るのは、分かって入って来ている子はいいですが、分からまま入って来ているそう言った特性を持っている子については、寮生活をしている中で、こちらから「そうかもしれない」という事を気付いた時点で、本人はもう相当参っていると言った状況もあることを難しく感じている所です。

(東郷議長) 分かりました。今の所寮生活の効用、寮生活はやはり続けるべきだと言った意見が多い訳ですが、必要ないという意見はございますか。

(澤田委員) 必要ないと言うつもりは全くないですが、意見として、実は今回入寮してよかったですという意見がすごく多くて、寮生活を上げた保護者の方が多かったと言うのはデータが表していますが、逆の意味で、寮があるから沼津高専に入らなかったと言う人はどれ位いるのだろうか、つまりこれから学生さんを募集して倍率も上げて行かないといけないと言う時に、だいぶ時代も変わってそういう親もいる事によって、せっかくの技術者の卵が沼津高専に入らなかったという事があると、もったいないなと言う気が致しましたが、それに関して何かコメントがあるか、あと中学校の先生もいらっしゃるので何か教えて頂けると私も勉強になると思いました。

(東郷議長) 今の件いかがでしょうか。例えば寮生活が無いとしたら、寮生活が有るために沼津高専を受けなかったと言う学生がいる可能性があるか、あるいはどの位なのだろうか、目安でいいですけれど。

(寮務主事) うちの学校でそういう調査をしていないので。

(東郷議長) 感覚でいいのですが。

(寮務主事) 中学校訪問に行った際、中学校の先生からそう言った声を聴く事があります。近隣でそう言った声がある一方で、浜松地区などでは、5年間寮に居られるならば送れるのだけれども言った保護者の声を聴きます。声が有るという事は分かりますが、その割合がどの位かと言う所までは分かりません。他高専でそう言った声が有ったので全寮制を止めてしまった学校もあります。そういう場合全寮制を止めてしまうと寮に入つて来る子が少なくなるので、寮生会が弱体化すると言う面もあります。寮の規律が保てなくなり、その結果そのような寮では入りたくないと言う人が増えてしまった。と言う高専もあるので、声を聴くことは大切だと思いますが、ある程度学生が入つてるので、寮が維持出来るという面もありますので、その辺の見極めを悩んでいる所でもあります。

(東郷議長) 例えば他高専で全寮制を停止したら、受験倍率が上がったとか言うデータがあるかどうかはどうでしょうか。

(寮務主事) 持っていないです。

(清 委員) 暴言的な発言になってしまふかもしれません、個人的な意見であることを前置きさせて頂いて、企業側からして良い人材を取るという意味で、例えば今学生寮がある

から沼津高専は行かない。と言うような人材は企業もいらない。極論かもしれません
が、そんな事を言いたくなります。

(東郷議長) 今のような意見を聞きますと、企業側の方も是非、寮制度を維持して頂いてきつ
りと寮の中での集団生活、コミュニケーション能力を身に付けさせて頂き、社会に輩
出して頂きたいという事が一つ、あとは沼津高専がその制度を決めたのならば、その
寮生活にはこういった効用があるという事を中学生・受験生にちゃんと知らせて、そ
の覚悟をもって沼津高専を受験して下さいと言う形で伝える事、発達障害等様々な問
題も出て来るかと思いますが、教職員の負担は増えるかもしれないが、そこはしっかりと
サポートをして頂いて、寮生活の効用はちゃんと維持して欲しいと言う事がまと
めになると思います。

(工藤委員) 募集の数が少なくなっている事を気にされているかと思いますが、どの公立高校も
生徒募集の倍率が下がって来ております。俗に進学校と言われている学校も非常に厳
しくなって来ております。近隣の進学校と言われる所であっても、よっぽど努力しな
いと厳しくなって来たなと言うことが、公立高校の校長の偽らざる気持ちです。

(阿部委員) 寮の事ではないのですが、入学志願者を増やしたいという事であれば、是非今流行
りのビックデータ解析をやられるのが良いのではないか、特に今中学生くらいと言
うのはかなり SNS を使っているので、こういう所を分析すれば、あそこの学校は全寮
制なんだよと言うようなコメントは間違いない流れていると思います。こういったも
のを分析すると、おそらくどの位のネガティブ効果があるのか、あるいはポジティブ
効果があるのかが分かると思いますので、是非検討されてみてはいかがでしょうか。

(澤田委員) 大学の中で一番最近我々が見ているのは、研究者として技術者として、人を批判す
る力というものはすごく大切で、批判が出来るような環境、先程封建的という言葉が
あったが、私どもの所を見ていると中々後輩が先輩を批判できない。それが無いよう
な所も併せて教育頂ければと思います。

(東郷議長) それでは、この項目についてはこのあたりで閉めたいと思います。
次の項目に入りますが、終了予定時間が伸びてしまいますが委員の皆様よろしいでし
ょうか。ご了解頂き有難うございます。
それでは次のテーマの「7年制に移行した場合の特色」に移りたいと思います。
学校側から説明をお願いいたします。

3) 7年制に移行した場合の特色

副校長（教務主事）から PPT 資料 2-3 に基づき標記提案理由について説明が行われた。

- ・高専は 7 年制に移行した方がよいのか。
- ・職業高等教育再編の中で高専はどのような立ち位置を占めたらよいのか。の 2 点についてご
意見を頂きたい旨の説明があった。

(東郷議長) 有難うございます。今の話は、現在高専は中学校を出た後 5 年間教育を受けて、こ
れが本科と言うもので、後専攻科で 2 年間それで 7 年間、専攻科を出た後に学位授与
機構の審査を受けて大学卒と同じ学位をもらうと言う事になっています。それを 7 年
間、要するに高校と大学を一貫教育した機関にすると言うのが今の 7 年制の話で、い
わゆる元々の高専の 5 年の体制と言うものを失くしてしまう事らしいのですが、それ
について意見を伺いたいとの事ですが、いかがでしょうか。まずは、豊橋技科大の方
のご意見はいかがでしょうか。

(澤田委員) 非常に難しいと言うか、我々は 5 年生の本科卒業生の方をお引き受けするための大
学なので、7 年制とう言うのは非常に困った問題だと考えています。ただ現実問題と

して最近見ていますと、色々と調べて行きますと、我々の中で日々話題になっているのが、アメリカの中でエンジニアの定義と言うのが学士です、準学士をエンジニアと呼べないと言うのがアメリカの中の定義で、そのエンジニアと言う言葉をアメリカで使う時には学士だという事があるものですから、是非学士を取らなければいけないのだろう、社会的、グローバルにそう言う事が起こっているので、7年制が良いかという事は別として、そういう事に社会が動いて行く必要があるのかと言うのが一つの意見かもしれません。ただもう一つ私、最近就職担当をしておりますが、景気が良くなってきた事、時代が変わってきたという事もあって、一時期高専卒の方々が大手のメーカーに中々就職出来なかった、学力が低いからと言う事もあったと思うが、高専卒を大手のメーカーが採らなくなったり時代がありました。最近もう一回、技術を伝承するためには必要だと言われる人事の方がおられます。特に製造業です。例えば、名前を申し上げれば、日本特殊工業、自動車関連の自動織機等々、つまり中堅の技術者の必要性、前任者がリタイヤされる時代を迎えて、そういう点でも高専卒を再認識されはじめて、もう一度高専卒の採用が少なかったのをまた採りたくなった。と言う大手の方もいらっしゃるので、この点7年制と言うのを確立化すると、今まで日本が出てきた非常にバラエティがある、良いエンジニアが出にくくなるのかもしれない個人的に思う所であります。

(東郷議長) 有難うございます。企業側とすれば、高専生はもう入って来ないという事になるのですが、要するに7年制ですから、5年として卒業した高専生は求人としてもう来ないという事ですが、そういう事に対してどうでしょうか。

(植松委員) まず質問があります。大学はこの夏にどういうパターンにして行くかと言うのを出していると思うのですが、文科省から言われて、地域に貢献するタイプで行くのか、世界トップレベルを狙うのか、もう一つはよく分からないのですが、特定のどうのこうの、そういう中で大学側が多分地域貢献型を選ぶ大学が出て来ると思うが、そうなった時に高専はどうやって生きて行くのかなと言うのが一つあって、そこがきちっとして行かないと、5年にするのか7年にするのかは、その後の話のような気がして聞いていたのですが、たまたま沼津高専は、静大(工学部)は浜松にあるものですから、我々からすると遠い所にありますと、沼津高専に来た方が早い、あるいは東工大に行った方が早いとかの話になるのか、そうすると沼津高専の立ち位置は結構いい所にあります。そこを考えないと、どういう風に生きて行くのかを考えないといけないのではないかと思いました。

(東郷議長) 先程の大学が3つの選択をするのですが、おそらく地方の総合大学はほとんど地域だったと思います。地域プラス特定分野での国内的拠点という事になると思います。ほとんどの地方大学はおそらく地域を目指しているし、地方再生という事で政府の方もそういう指導をしている面もあります。

(阿部委員) そういうのが出て来ると、尚更高専としての特色をどう生かすかと言うのが。

(東郷議長) そうですね。そういう中で5年の高専、本科の5年間と言うのを維持するのか、あるいは7年制の高校大学の一貫教育の方を目指すのかという事になるのでしょうか。

(阿部委員) まず私の会社の状況から申しますと、かつては高専の卒業生を大量ではないですがかなり採っていた。学卒と高専の比率で言うと約2割程度とっていた時期がありますが、しばらくほとんど採らなくなっていました。しかもほとんどマスターしか採らないという状況にあって、ここ3年くらい若干見方が変わってきて、また高専卒を採るようになってきた。なんでそうなっているかと言うと、ここから先は私の個人的な意見が強くなってしまうのですが、ソフトなんかをやっていますと、今グローバルにものすごく競争が激しいので、あまり年を取ってから入ってくると正直厳しいなと言う

所があります。それよりも例えばプログラミングスキルを身に付けて、若くして入って来て頂く方が良い。例えばGOOGLEなんかと競争しなければいけないと言うような世の中になりつつあるので、24歳25歳で入って来てあまりプログラミングなんて出来ない、理論は知っているかもしれないみたいな人は、全く競争には勝てないと個人的には思っている。そうすると若い人に入ってきて欲しい。同じ様な考え方を持っている人もいる。人事はそう思っていないと言うのが正直ありますけれども、なので私は個人的な意見ですが、もし7年制に行ってしまうと、大学との差はどこにあるんでしょうかと言う所に、すごく引っかかってしまう。しかも人数的に言えば圧倒的に大学卒の方が、元々の大学を出されている方の方が多いと言うのがあるとすれば、マイナリティーだと言う話が効いてきてしまうのではないかと言う気がします。どうしても母数が大きければ比率はともかくとして絶対数として優秀な卒業生が多いのはどちらですかと言ったら、元々の大学の方に人数的に多いのではないか。そういう意味で非常に実践的な教育をやって頂いて、しかもそのまま就職されるのであれば20歳という年齢で企業に入ってくる。そういう人材が、実は特にスピードをものすごく要求されるようになっている今の世の中では大事なのではないかなと感じている。そういう意味で高専にはそういう特色を持ち続けて頂きたいと言うのが正直な所です。ただ7年制に移行してもその特色を出せるのかもしれないが、先程もありましたように、実習みたいな事は高校大学を経験した学生というのは大学入試で疲弊しますし、大学と言うのは学科にもよると思いますが、中々目標が定まっていない所もあるので、そういう意味では特色を出せるのかもしれません、やはり若い戦力を教育して頂くという面は、やはり重要なのではないかと思います。

(東郷議長) 有難うございます。今のご意見は、大変重要だと思います。他にございますか。

(工藤委員) 私は最初に言いましたように、沼津高専の意義は非常に高いのは十分承知しているのですが、高校にいた経験とか実業高校にいた経験から話しますと、工業高校からも随分と大学へ行きます。かつては1割2割程度、今は3割4割くらい大学へ進学する状況です。昔なら行けるのかなと言う所へ、今はどんどん入って行きます。そしてセンター試験も受けます。何故かと言うと、保護者の意識はやはり大学に進学させたいというのが非常に大きい。それが若干倍率にも影響してくる部分もあると思います。沼津高専が中堅技術者を育てると言うならば、今のままの存在は非常に大きいと思います。ただ民間がより高度の技術を持った人を探りたいとなると、中々高専からは採りにくくなつて来るかなと考えます。中堅技術者としては良いのですが、より上級また研究者としてグローバルに世界で活躍するような技術者を育てるならば、又、創造性とか発想の豊かさを求めるならば、技術ばかりではなく文系の教科を取り入れて、文学も親しみ、芸術も親しみ、その中から一つの発想を求めて技術と連携していくような学生を育てるのならば、やはり7年制に移行せざるを得ないのではないかと思います。20年30年後の日本の企業が求める技術者と言うのがどのような姿か十分研究する、大事な時期ではないかと想定します。

(東郷議長) 有難うございました。他にございますか。

(富永委員) 色々な学生の方とお会いしますが、一般的かどうか分りませんが、どういう階層の方でないといけないという事はないのですが、今応募して来られる方で大学院生が非常に多いです。私どもが積極的に採っている訳ではないのですが、社内からも「なんでこんなに大学院生が多いのか」と言われますが、応募してくる方が多いですね、就職しにくかった時代を大学院まで行って改めて社会に出ようと、そういう意味では学生に選択肢が増えたのかな。先程教育長さんが言われましたように、私どもも工業高校の卒業生を採りたいと考えていますが、逆に非常に採りにくい状況です。若年層

が非常に採りにくい。大学行かれる方が多いですね。そう考えますと高専の年齢で5年間やられた方を私どもは求めている人材ではあるのですが、一方、応募されるかと言うと非常に少ないです。全国的に見て少ないです。沼津高専は今までのお付き合いもありますので、お伺いして是非にと言うお話をしますが、全国的に見ても高専からの応募者は少ないです。それは選択肢としてその上の大学に行きたいと言う学生がそれなりにいらっしゃるのか、更にその上の大学院へ行かれるという選択肢があるので、そこまでを選ぶ方が多い。これは親御さんのご意見もあるのかもしれません、大学は出た方が良いのではないかと言うのがあるのかもしれないですが、就職することを先延ばしにするという言い方が良いかは分かりませんが、ある程度社会の状況を見て、自分が今の年齢で就職して、果たしてどの位のレベルなのか量りかねる方もいらっしゃるのか、更にもう少し先延ばしして社会の状況がもう少し良くなつて、自分たちのレベルでも探ってもらえるようになつたらという事を、もしかして考えているのか、若しくはより高い技術を身に付けてから世の中に出たいと言う高い志の方もいらっしゃると思いますが、その選択肢が非常にある中で、高専の学生がこれは4年生5年生と言っていいのか、それより若年からでも良いのかは分かりませんが、私どもから言うと非常に多様性を求めていまして、学校の勉強だけでなく例えば、私どもへの就職を希望する学生に等しく聞いていますが、例えば「留学してきた事がありますか」海外旅行でも良いのですが、例えば海外へ出たことが有るのか無いのか、例えば学校の勉強以外で友達付き合いはどんな事をやっていますかとか、大学で言えばサークル活動であったり、アルバイトであったりで良いのですが、学業と違う所でどれだけ人と接する事が出来たとか、世の中を見てきたかとかそういう所を求めた時に、やはりもちろん高専の本科の勉強も大事ですが、そういう所、例えば海外へ何か月か留学したとか、夏休みを利用してそう言った所へ行って頂くとか、多少そう言ったアドバンテージを付けてあげながらすると、もちろん5年間の勉強の中でも十分企業でも通用する人材、元々の素地は十分にあるでしょうから、更にプラスアルファを付けて頂くような教育のプログラムがあればその上の部分を考えなくとも、選択肢の中にそう言うものもあるんだという事を、学生の選択肢を高専の中で増やしてあげる、と言うことが有つても良い。そういう中でご自身の選択肢として、私は5年で卒業して社会へ出ますと言う人が増えれば当然企業に対する応募も増えて来るでしょうし、私どもはそういう人材であればどんどん取りたいと思っています。ですから私どもが選ぶと言うより、学生が選べるような時代になっているのかな、それはそれで良いのだろうし、逆に言うとその多様性、選ばれる高専であるべきなのかと思います。

(東郷議長) なかなか難しい議論ですが、校長先生の概要説明の所で出てきましたが、トップの方は大学の方へ行って、割と下の方の人が就職して行くという状況が現状にあって、それで専攻科を作つて専攻科を出たら大学の資格を与えると言う、専攻科を出てすぐに修士課程に行けると言う形で、修士課程あるいは博士課程まで行ける訳です。そういう中で一番の問題は5年で卒業する人はもう社会から無くなる訳です。7年制と言うのはそういう事ですね。そういう形を維持するか維持しないかと言うのが大きな問題で、もう一つ、もし7年制に移行したときに高校と大学の7年の一貫教育を沼津高専はどのようにプログラムしますかと言う事が非常に重要になるという事です。いずれにせよ、5年の今の体制でも、5年で出す卒業生をちゃんとするという事、専攻科が僕はまだ分からぬ所がありますが、専攻科と言うのはどういう教育をしているかという事、私は高専を出ていますが、高校から大学7年間の専門教育を含めた教育を、それを5年間に圧縮してやっています、と言うイメージでいます。ですから専門性は大学生と変わらないというイメージで教育されていた訳です。それでその上に専攻科

2年を付けるとその専攻科はどういう教育をするかという事がやはり重要だと思います。どちらにしても沼津高専としてはやはり特徴を出して教育プログラムを作つて行くという事が非常に重要だと思います。

(木戸委員) 皆さんの言われているとおりだと感じています。卒業生としての感想と言いますか、先ほど言いましたけど5年間で、20歳で卒業する時に専門分野では大学と同じレベルだという事で、大学出るよりも2年早く出たいという意識で高専に入学しました。20歳で学校を出て新人教育とかを全部大学卒業生と同じにやって、それで仕事をして、どっちがどうだという事がないことを経験してきました。そういう5年生制度が無くなってしまうのは、今までやつてきた事はどうなるのだろうなと感じます。私の学生当時は編入はごく一部であり専攻科と言う選択肢は無く、3年で辞めて大学に行くという道がその他の数少ない選択肢でした。大学編入を希望すれば半分近くの学生がそういうルートが出来ています。それから同じ学校の中でも専攻科という制度も作りました。現状の選択肢はこれで十分ではないかと思います。問題の本質は社会が求める人材を出せるかどうか、どういう特色、高専が本当に役立つ者を輩出できているかどうかと言うのは十分問われて改善するべき方向だと思います。それはいつでも常にやっていかなければいけないことですが、それが7年制に置き換えるという事になるのは感覚的に理解出来ません。5年でも長かったのに更に2年と言う制度が本当に成り立つかとも思います。

(東郷議長) 有難うございます。

時間も押し詰まってまいりました、最後に校長先生の方でまとめて頂き終了したいと思いますがよろしいでしょうか。

(校長) 長時間にわたり、大変有難うございました。活発なご議論と沢山のご意見を頂きましてとても有意義だったと思います。今年度から会議の方法を変えさせて頂き、3つのテーマに絞らせて頂きましたが、3つでも多かったかもしれません。

最初のインターンシップの話ですが、私自身企業で受け入れる側と、教員となって送り出す側両方経験いたしました。受け入れる企業にとって大変です。そんなに負担を強いられるならば両方にメリットがないと良くないと思っています。この学校で長期インターンシップがどういう理由で始まったのかをあまりよく理解していませんが、大切なのは何を求めるか、長期だったら良いのか、それとも社会を知るそれを求めるのか、そう言ったところを学校側で議論をさせて頂いてはっきりさせなければならぬと感じています。目的が変われば大学の研究室でも良いのかもしれない。社会を知るという目的だとすればそれは少し違うかもしれないと考えています。又議論をさせて頂き来年報告させて頂きます。

次に寮の話ですが、寮は沼津高専の特色だと思います。寮生数、規模で全国1位になった事もある大規模な寮を持っている、全寮制だという事が特色です。その特色は無くさない方が良いとのご意見を沢山頂きました。ただ教育長からご指摘頂きましたように画一的にならない様にとか、どうしても合わない人のためのセーフティーネットは、制度上必要だと思いますので、それはやろうと思います。そういうご意見を聞きながら別の切り口で見ていました。それは、私も前任の和歌山で寮務主事を6年間やって、500人の寮生の面倒を見ておりましたが、どう見ても沼津の寮の関係者の先生の方が忙しい。それは何故かと言うと、学生の自治に任す、学生に任せながら学校の思った方に導こうとすると、もっと忙しくなる。と言うのも事実です。これは相手がある事ですから、非常にバランスが難しいことですが、もう少し学生に指導

まで任す。言い方が悪いことですが学生の処分まで任す。これは学生をちゃんと導くためには教員の負担がすごく増える。もう少し学校側が介入した方が教員の負担は軽くなるかもしれない。これもまた検討したいと思います。

最後の7年制の話ですが、まだ決まっていませんが、そういう風になるかもしれません。そのようになった時、本当にニーズがあるのだろうか。企業様の方で本当にニーズがあるのだろうか。技術科学大学との間がどのようになるのか、そのあたりのご意見を伺いたかったのですが、7年制で何を目指すか、専攻科の話もありましたが、5年間の教育をした上にどういった教育をしてあげるのが学生のために一番良いのかと言う所をもう少し突き詰めて考えなければならぬのかなと思っています。高専は少数の小さな組織ですが、マイノリティーが逆にメリットになっている。企業から高く評価して頂いている面も多くあると思っています。それが7年制に移行するという事は、多数側に入るという事に等しい事で、そう言った時に高専のメリットを今迄通り企業側から評価して頂けるかは、もう少し考えなければいけないと思っています。来年の今の時期にまだ7年制の結論は出でていないと思いますが、学内で議論させて頂いたことは報告させて頂きたいと思っています。

本日は長時間にわたり誠に有難うございました。

(総務課長) 以上をもちまして、平成27年度沼津工業高等専門学校運営諮問会議を終了いたします。本日は長時間にわたりご議論いただきまして誠にありがとうございました。

運営諮詢会議報告書

－平成 26 年度年度計画自己点検評価の検証／平成 27 年度年度計画－
(平成 28 年 3 月発行)

沼津工業高等専門学校 総務課

〒410-8501 沼津市大岡 3600

TEL 055-926-5856

Fax 055-926-5700

URL <http://www.numazu-ct.ac.jp>